



みえ県民意識調査分析レポート（令和元年度）

－ 県民の幸福実感向上のために －



令和2年3月

三重県 戦略企画部企画課

目次

はじめに	1
第1章 幸福感の現状	3
第1節 幸福感の県全体の状況	4
第2節 幸福感の一属性クロス分析	6
第3節 幸福感の2以上の属性クロス分析	10
第4節 幸福感を判断する際に重視した事項と幸福感との関係	15
第5節 幸福感を高める手立てと幸福感との関係	18
第6節 幸福感と幸福実感指標との相関関係	20
第2章 地域や社会とのつながりと幸福実感	26
第1節 地域活動への参加状況	27
第2節 地域活動への参加状況と幸福感の関係	31
第3節 地域活動への参加状況と幸福実感指標との関係	33
第4節 人とのつながりと幸福感	37
第3章 少子化対策に関する分析	38
第1節 結婚や家族に関する現状と分析	39
第2節 妊娠・出産、子育てに関する現状と分析	42
第3節 実際の子どもの数と理想の子どもの数の差の理由	46

はじめに

1 みえ県民意識調査の概要

県では、「みえ県民カビジョン」において、「県民力でめざす『幸福実感日本一』の三重」を基本理念として掲げています。このことから、県民の皆さんの「幸福実感」を把握し、県政運営に活用するため、一万人の県民の皆さんを対象に、日ごろ感じている幸福感や、地域や社会の状況についての実感などをお聞きする「みえ県民意識調査」を毎年実施しています。

昨年1月から2月にかけて実施した「第8回みえ県民意識調査」の概要は次のとおりで、集計結果は6月に公表しました。

- 調査期間：平成31年1月～2月
- 調査対象：県内に居住する18歳以上の男女10,000人に対する郵送アンケート
- 有効回答数：5,044人（有効回答率 50.4%）
- 調査項目：
 - ・ 幸福感（第1回調査からの継続項目）
 - ・ 地域や社会のつながりについて
 - ・ 県民指標の一部
 - ・ ご家族に関すること

2 分析レポートの目的

「みえ県民意識調査」を詳細に分析した結果は、県民の皆さんの幸福実感を高めるために、政策議論の際の参考としてきました。特に、今年度は、「みえ県民カビジョン・第三次行動計画」策定のための資料等として活用しました。

今回の調査については、既に集計結果（報告書）を公表し、県の年次報告書である「成果レポート」にも主な結果を記載したほか、「三重県経営方針」の策定及び当初予算議論の際の参考資料等としても活用しました。さらに、戦略企画部において、専門家の助言も得ながら、詳細な分析を進めてきました。

このレポートでは、幸福実感について詳細に分析した結果を整理した上で、県民の幸福実感と密接に関連しているものは何か、あるいは幸福実感向上のためにはどのような課題があるのかなどについて考察した内容を記述しています。この意識調査の結果だけで政策を判断することはできませんが、このレポートをきっかけとして、県民の幸福実感向上と政策のあり方等について議論が展開されることをめざしています。

3 本レポートの構成

第1章「幸福感の現状」では、10点満点で質問した幸福感の特徴や傾向等について見るため、属性別に集計するとともに、幸福感を判断する際に重視した事項や幸福感を高める手立てと幸福感の関係等をまとめました。

第2章「地域や社会とのつながりと幸福実感」では、地域活動への参加状況と幸福感や幸福実感指標との関係をまとめました。

第3章「少子化対策に関する分析」では、18～40歳代の結婚への希望や子どもを持つことの希望について現状を把握し、また、実際の子どもの数と理想の子どもの数との間に差が生じていることから、その理由について分析を行いました。

4 その他（記載方法など）

- ・本レポートでは、10点満点で調査した幸福感についてのみ「幸福感」として記述し、地域や社会の状況についての実感を含む主観的な実感全体については、「幸福実感」として記述しています。
- ・データを属性別に細分化すると、サンプル数が少なくなり、統計的な精度が低くなることから、データの統計的な有意性について可能な限り確認しました。なお、統計的な有意性を確認しているものは、その旨を記載しています。
- ・スペース等の都合上、選択肢の表現等を趣旨が変わらない程度に簡略化して記述しています。また集計にあたっては、未回答の扱いや四捨五入の関係により、回答比率の合計が100%にならない等の場合があります。
- ・詳細なデータについては、データ集として別冊にまとめています。データが必要な方は、県ホームページ（[URL](http://www.pref.mie.lg.jp/KIKAKUK/HP/mieishiki) <http://www.pref.mie.lg.jp/KIKAKUK/HP/mieishiki>）をご覧ください。か、三重県戦略企画部企画課（TEL 059-224-2025 電子メール kikakuk@pref.mie.lg.jp）まで連絡をお願いします。

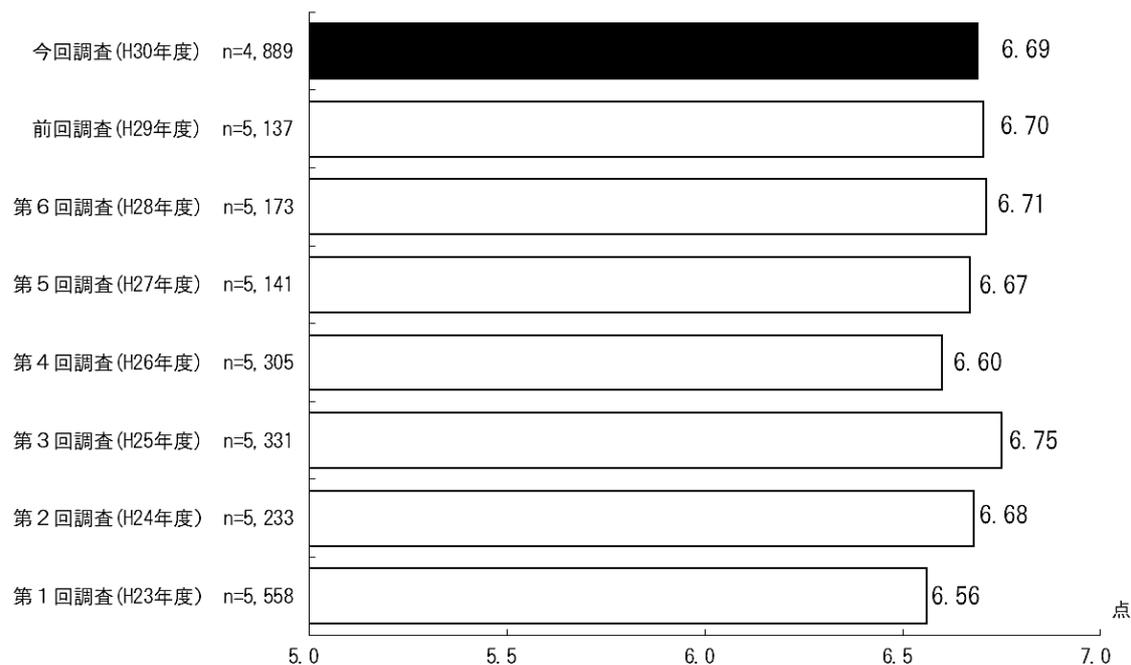
第 1 章

幸福感の現状

第1節 幸福感の県全体の状況

県民の皆さんが日ごろ感じている幸福感（以下、「幸福感」と記載）について10点満点で質問したところ、今回調査（平成30年度実施）の平均値は6.69点で、第1回調査より0.13点高く、前回調査より0.01点低くなっています（図表1-1-1、図表1-1-2）。

図表 1-1-1 幸福感の平均値の推移



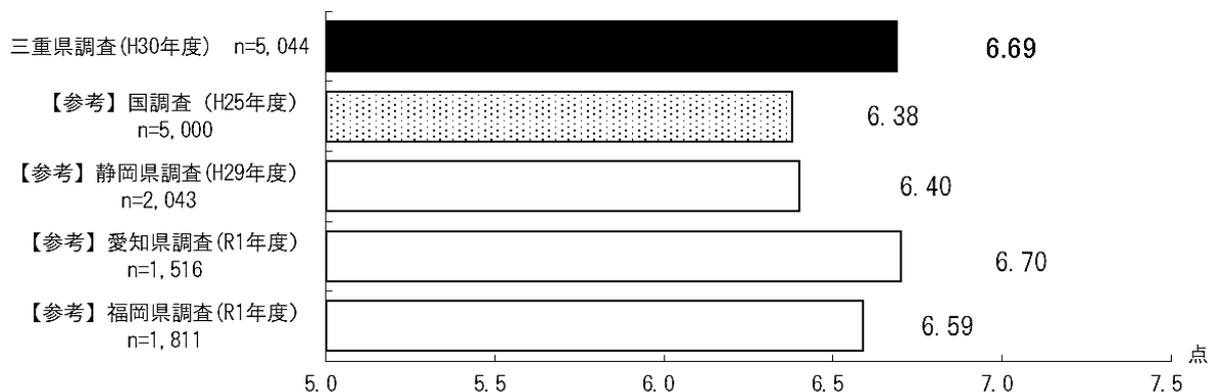
（備考）今回調査と第1回調査との差は、統計的に有意な差となっています。

図表 1-1-2 みえ県民意識調査の調査概要（第1回～第8回）

	第1回調査	第2回調査	第3回調査	第4回調査
調査時期	平成24年1月～2月	平成25年1月～2月	平成26年1月～2月	平成27年1月～2月
標本数	県内居住の男女 10,000人	県内居住の男女 10,000人	県内居住の男女 10,000人	県内居住の男女 10,000人
有効回答(率)	5,710(57.1%)	5,432(54.3%)	5,456(54.6%)	5,444(54.4%)
調査対象	20歳以上	20歳以上	20歳以上	20歳以上
実施方法	郵送法	郵送法	郵送法	郵送法
	第5回調査	第6回調査	第7回調査	第8回調査 (今回調査)
調査時期	平成27年11月～12月	平成29年1月～2月	平成30年1月～2月	平成31年1月～2月
標本数	県内居住の男女 10,000人	県内居住の男女 10,000人	県内居住の男女 10,000人	県内居住の男女 10,000人
有効回答(率)	5,236(52.4%)	5,317(53.2%)	5,270(52.7%)	5,044(50.4%)
調査対象	20歳以上	18歳以上	18歳以上	18歳以上
実施方法	郵送法	郵送法	郵送法	郵送法

また、調査方法等が同一ではないことから単純な比較はできませんが、国や他県の調査結果は以下のとおりです(図表 1-1-3、図表 1-1-4)

図表1-1-3 幸福感（国調査及び他県調査との比較）



図表 1-1-4 参考とした国や他県の調査の概要

- ◎ 平成 26 年健康意識調査（実施主体：厚生労働省）
 - ・質問：「現在、あなたはどの程度幸せですか。」（みえ県民意識調査と同一）
 - ・実施時期：平成 26 年 2 月
 - ・有効回答数：5,000
 - ・調査方法：インターネット
 - ・幸福感：6.38

- ◎ 平成 29 年度県政世論調査（実施主体：静岡県）
 - ・質問：「あなたは現在、どの程度幸せですか。」（みえ県民意識調査と同一）
 - ・実施時期：平成 29 年 6 月～7 月
 - ・有効回答数：2,043
 - ・調査方法：郵送法
 - ・幸福感：6.40

- ◎ 令和元年度第 1 回県政世論調査（実施主体：愛知県）
 - ・質問：「現在、あなたはどの程度幸せですか。」（みえ県民意識調査と同一）
 - ・実施時期：令和元年 7 月
 - ・有効回答数：1,516
 - ・調査方法：郵送法
 - ・幸福感：6.7

- ◎ 令和元年度県民意識調査（実施主体：福岡県）
 - ・質問：「現在、あなたは実感としてどの程度幸せですか。」
 - ・実施時期：令和元年 7 月
 - ・有効回答数：1,811
 - ・調査方法：郵送法
 - ・幸福感：6.59

第2節 幸福感の一属性クロス分析

幸福感を1つの属性（ここでは、地域、性、年齢、職業、配偶関係、世帯類型、世帯収入）によるクロス分析を行いました。個人の幸福感はさまざまであり、多くの要素と関係性があると考えられることから、県民の幸福感の特徴や傾向をより詳細に把握するためには、次節に記載する2以上の属性によるクロス集計の結果も合わせて見ていく必要があります。

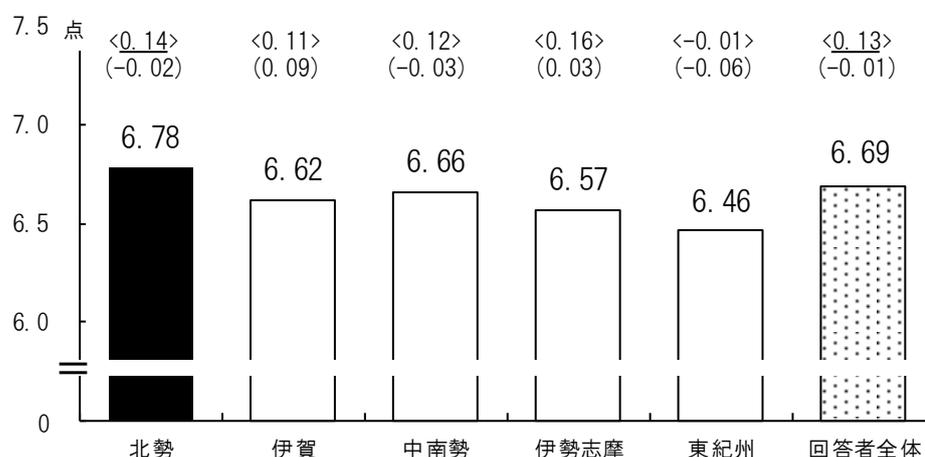
【凡例】

- 1 < >内の数字：第1回調査との差(点)
 ()内の数字：前回調査との差(点)
 下線の数字：統計的に有意な差がある場合
- 2 黒色：幸福感の平均値が回答者全体より高く、かつ統計的に有意な差がある属性項目
 灰色：幸福感の平均値が回答者全体より低く、かつ統計的に有意な差がある属性項目
 白色：幸福感の平均値が回答者全体と比べ、統計的に有意な差が認められない属性項目

1 地域別

回答者全体より、北勢地域の幸福感が高くなっていますが、他の地域では統計的に有意な差は認められません。第1回調査と比べ、北勢地域の幸福感が高くなっています（図表1-2-1）。

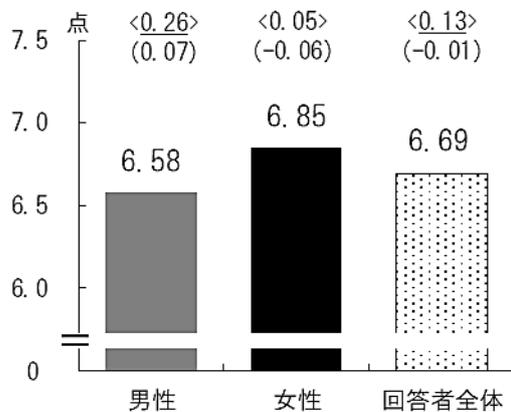
図表1-2-1 幸福感（地域別）



2 性別

第1回調査、前回調査と同様に、女性は男性より幸福感が高くなっています（図表1-2-2）。

図表1-2-2 幸福感（性別）

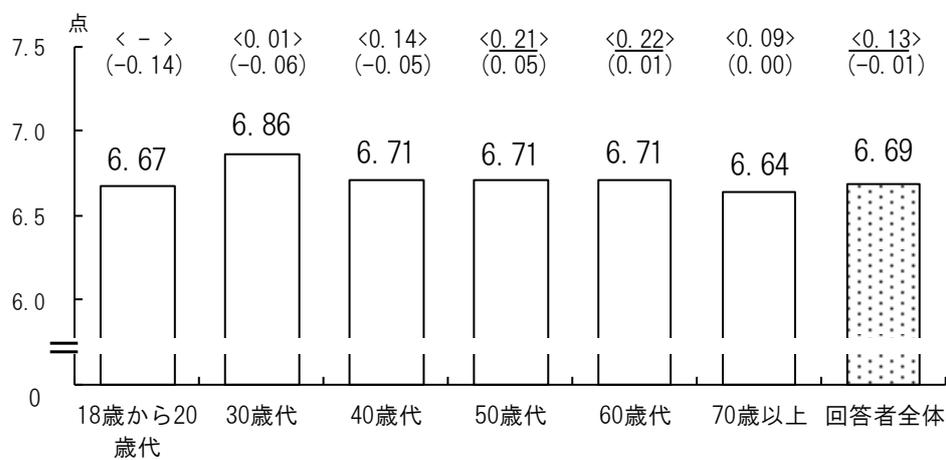


3 年齢別

いずれの年齢でも、回答者全体と比べて統計的に有意な差は認められません（図表1-2-3）。

第1回調査と比べ、50歳代及び60歳代の幸福感が高くなっています（図表1-2-3）。

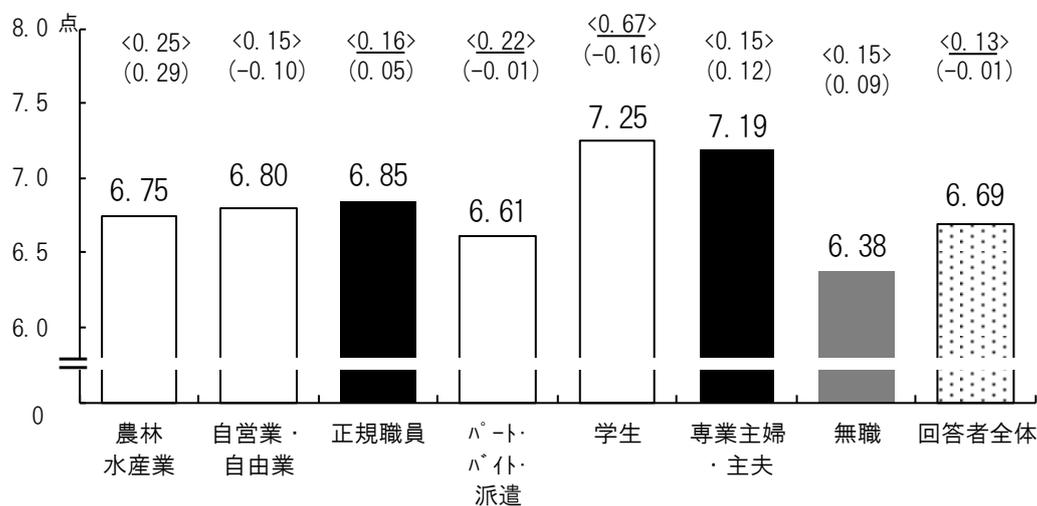
図表1-2-3 幸福感（年齢別）



4 職業別

回答者全体より、正規職員及び専業主婦・主夫の幸福感が高く、無職の幸福感が低くなっています。第1回調査と比べ、正規職員、パート・アルバイト・学生の幸福感が高くなっています(図表1-2-4)。

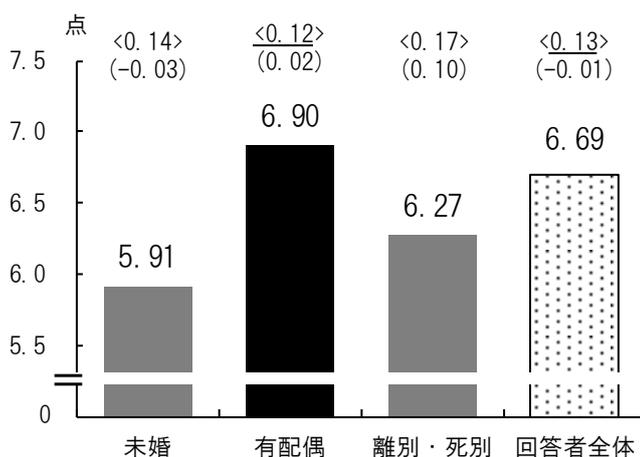
図表 1-2-4 幸福感 (職業別)



5 配偶関係別

回答者全体より、有配偶の幸福感が高く、未婚、離別・死別の幸福感が低くなっています。第1回調査と比べ、有配偶の幸福感が高くなっています(図表1-2-5)。

図表 1-2-5 幸福感 (配偶関係別)



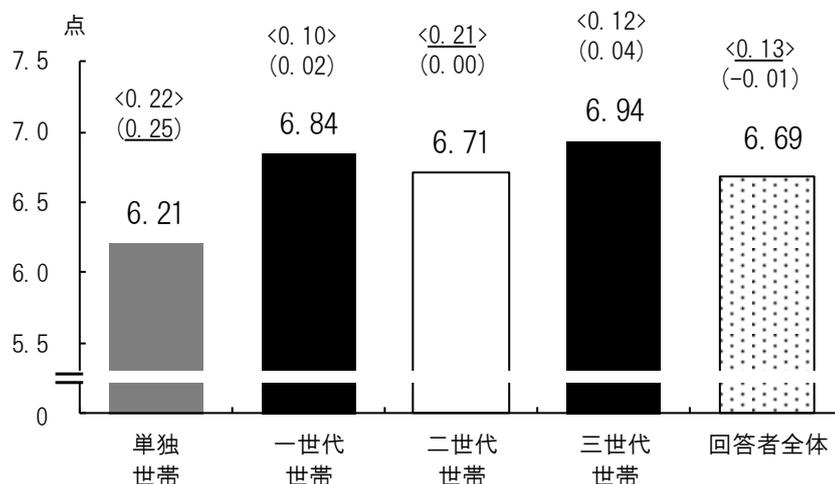
(備考)

今回調査では、離別と死別を区分して質問していますが、過去との比較のため、離別・死別を合わせて集計しています。

6 世帯類型別

回答者全体より、一世代世帯と三世代世帯の幸福感が高く、単独世帯の幸福感が低くなっています。前回調査との比較では、単独世帯の幸福感が高くなり、第1回調査と比べ、二世代世帯の幸福感が高くなっています（図表 1-2-6）。

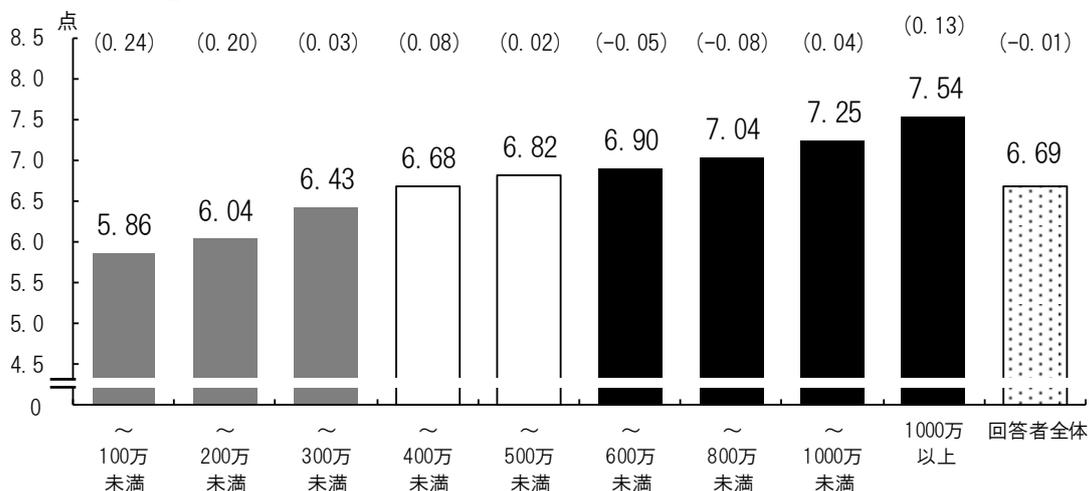
図表 1-2-6 幸福感（世帯類型別）



7 世帯収入別

回答者全体より 300 万円未満の層の幸福感が低く、500 万円以上の層の幸福感が高くなっています（図表 1-2-7）。

図表 1-2-7 幸福感（世帯収入別）



（備考）第1回調査では異なる区分での世帯収入を質問しているため、第1回調査との比較はしていません。

8 幸福感の一属性クロス分析から判明した主なデータ

前回調査との比較では、世帯別類型で単独世帯の幸福感が高くなっていました（統計的に有意な差がみられたもの）。また、第1回調査から第8回調査まで、8回連続、回答者全体に比べ、幸福感が高いあるいは低い属性項目（統計的に有意な差がある場合）は次のとおりでした。

（幸福感が高い属性） 女性、専業主婦・主夫、有配偶、一世代世帯

（幸福感が低い属性） 男性、無職、未婚、離別・死別、単独世帯

第3節 幸福感の2以上の属性クロス分析

個人の幸福感はさまざまであり、多くの要素と関係性があると考えられます。そこで、県民の幸福感の特徴や傾向をより詳細に把握するため、2以上の属性クロスのうち、特徴的な傾向がみられた属性の組合せを掲載しています。

なお、分析にあたっては、全ての属性（性、年齢、職業、配偶関係、世帯類型、世帯収入、地域）を2つ組み合わせてクロス分析を行いました。

【凡例】

太字の数字：幸福感の平均値が回答者全体より高く、かつ統計的に有意な差がある属性項目

斜字の数字：幸福感の平均値が回答者全体より低く、かつ統計的に有意な差がある属性項目

◀→：2属性間で最も点差が大きい属性項目

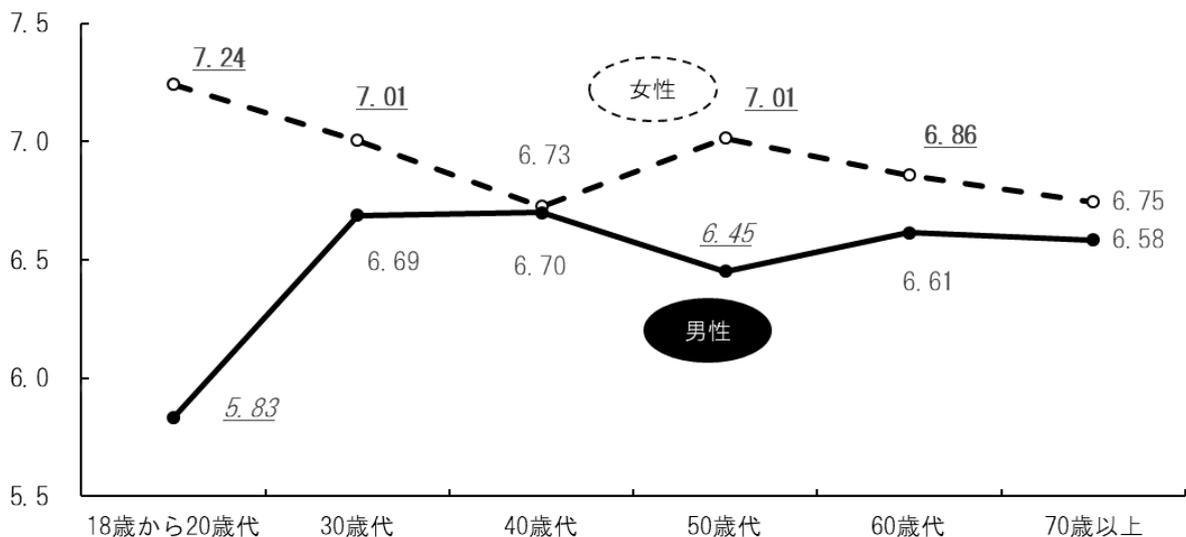
1 年齢別・性別を中心とした2以上の属性クロス分析

(1) 年齢別×性別

年齢別×性別に幸福感を見ると、女性の幸福感が男性よりも高くなっています。特に18から20歳代で女性と男性の幸福感の差が大きくなっています（図表1-3-1）。

（なお、30歳代と40歳代では統計的に有意な差が認められませんでした。）

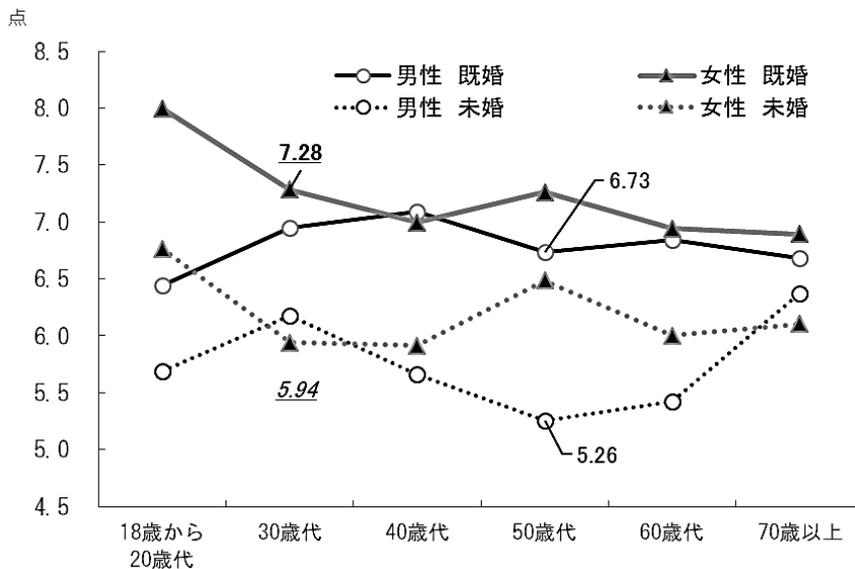
図表1-3-1 幸福感（年齢別×性別）



(2) 年齢別×性別×未婚・既婚別

年齢別×性別×未婚・既婚別に幸福感を見ると、男女ともに既婚の方が未婚より幸福感が高くなっています。男性は50歳代で、女性は30歳代で未婚と既婚の幸福感の差が大きくなっています(図表1-3-2)。(なお、統計的に有意な差があったのは、男性は30歳代から60歳代、女性は18歳から50歳代及び70歳代でした。)

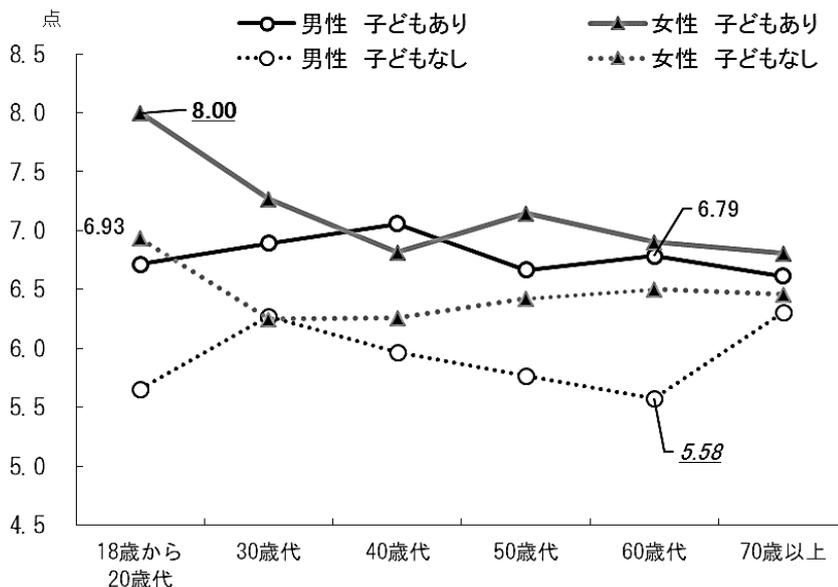
図表 1-3-2 幸福感 (年齢別×性別×未婚・既婚別)



(3) 年齢別×性別×子どもの有無別

年齢別×性別×子どもの有無別に幸福感を見ると、男女ともに子どもありの層の方が子どもなしの層より幸福感が高くなっています。男性は60歳代で、女性は18歳から20歳代で、子どもありの層と子どもなしの層の幸福感の差が大きくなっています(図表1-3-3)。(なお、統計的に有意な差が認められたのは、男性は30歳代から50歳代において、女性は50歳代以下でした。)

図表 1-3-3 幸福感 (年齢別×性別×子どもの有無別)

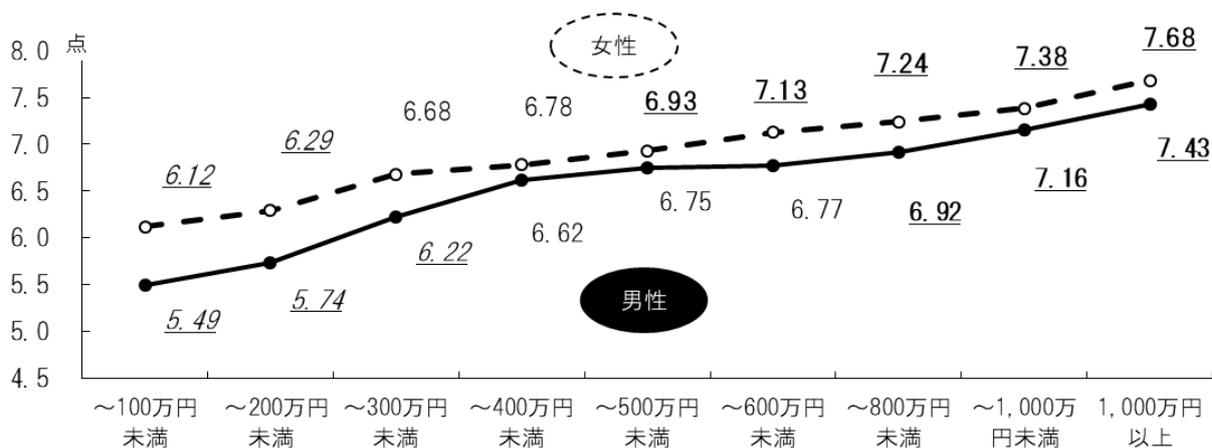


2 世帯収入別を中心とした二属性クロス分析

(1) 世帯収入別×性別

世帯収入別×性別に幸福感を見ると、男女ともに世帯収入が高くなるほど幸福感もおおむね高くなる傾向にあり、全ての世帯収入で女性の幸福感が男性よりも高くなっています。世帯収入100万円未満で女性と男性の幸福感の差が大きくなっています（図表1-3-4）。

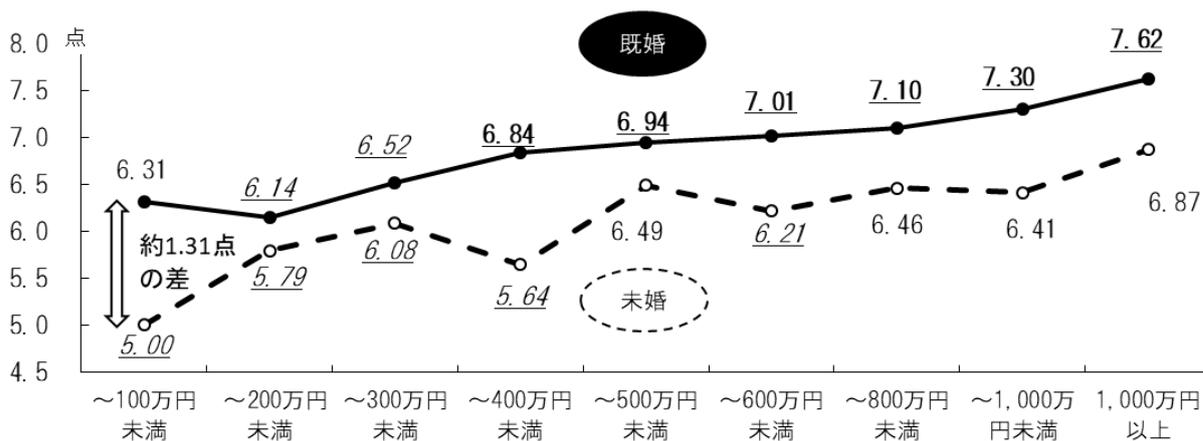
図表1-3-4 幸福感（世帯収入別×性別）



(2) 世帯収入別×未婚・既婚別

世帯収入別×未婚・既婚別に幸福感を見ると、既婚は世帯収入が高くなるほど幸福感もおおむね高くなる傾向にあり、全ての世帯収入で既婚の幸福感が未婚よりも高くなっています。年収100万円未満の幸福感の差が大きくなっています。

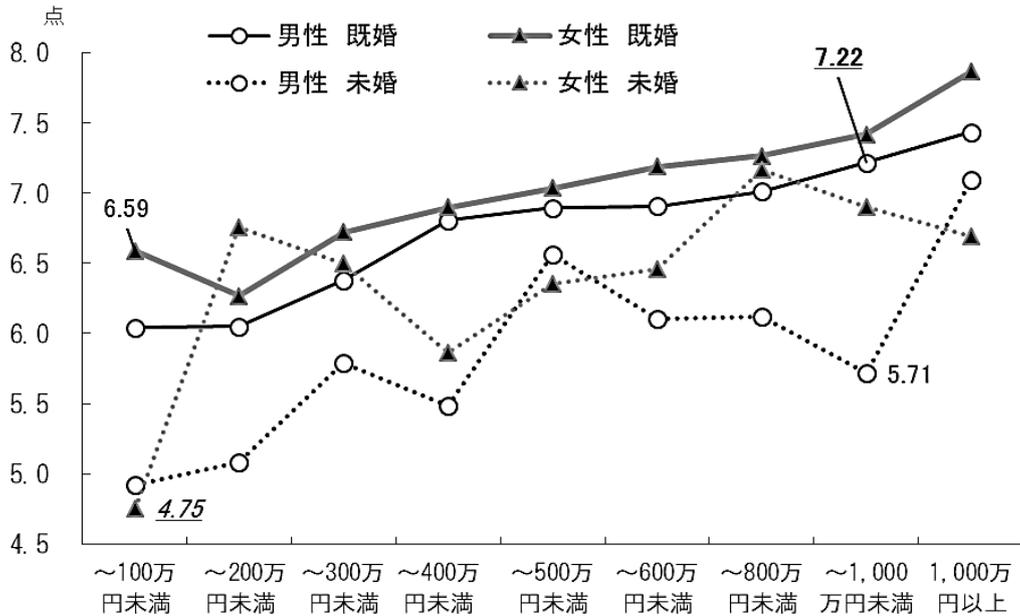
図表1-3-5 幸福感（世帯収入別×未婚・既婚別）



(3) 世帯収入別×性別×未婚・既婚別

世帯収入別×性別×未婚・既婚別の幸福感をみると、男性では、世帯収入にかかわらずおおむね未婚よりも既婚の幸福感が高い傾向がありました。なお、男女とも既婚は年収に伴い幸福感が増加していますが、未婚ではそのような傾向が認められませんでした。男性では世帯収入 800 万円以上 1,000 万円未満において、女性では 100 万円未満において、未婚と既婚との幸福度の差が大きくなっています（図表 1-3-6）。

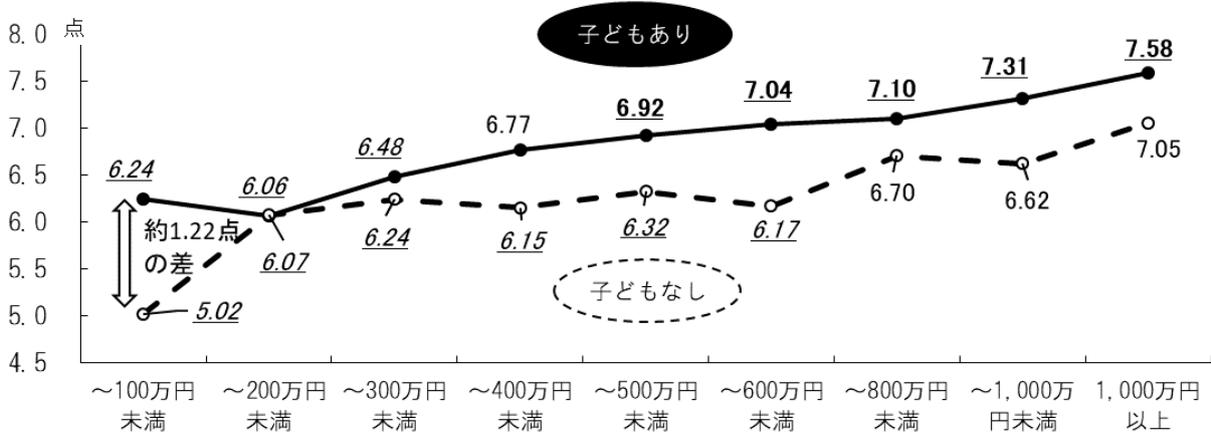
図表 1-3-6 幸福度（世帯収入別×性別×未婚・既婚別）



(4) 世帯収入別×子どもの有無別

世帯収入別×子どもの有無別に幸福感をみると、100 万円以上 200 万円未満の世帯を除き、子どもありの層が子どもなしの層よりも幸福感が高くなっています。100 万円未満で幸福度の差が大きくなっています。（図表 1-3-7）。

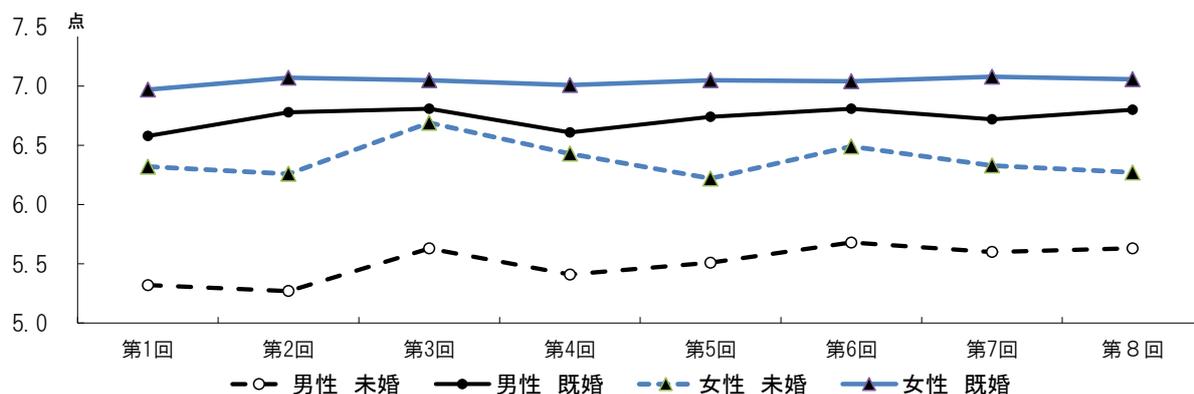
図表 1-3-7 幸福度（世帯収入別×子どもの有無別）



参考1 属性ごとの幸福感の推移

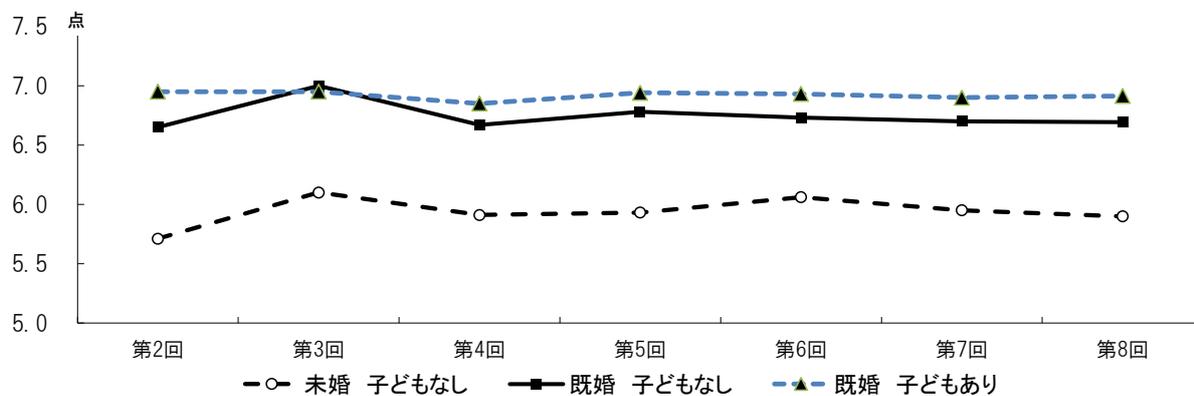
○既婚と未婚の幸福感について、さらに性別で幸福感の推移を見ていくと、全ての回で既婚の女性、既婚の男性、未婚の女性、未婚の男性の順で高くなっています(図表 参考1)。

参考1 未婚・既婚×性別の幸福感



○既婚と未婚の幸福感について、さらに子どもの有無で幸福感の推移を見ていくと、概ね既婚 子どもありの層、既婚 子どもなしの層、未婚子どもなしの層の順に高くなっています(図表 参考2)。

参考2 配偶関係×子どもの有無



※第1回調査では子どもの希望について質問していないため、第2回以降の調査結果を記載しています。

第4節 幸福感を判断する際に重視した事項と幸福感との関係

1 幸福感を判断する際に重視した事項の回答者全体の状況

幸福感を判断する際に重視した事項は、「健康状況」(68.2%)、「家族関係」(65.5%)が最も高く、次いで「家計の状況」(57.8%)となっています。また、第1回から第8回調査まで、8回連続、これらの事項が上位3位を占めています。

	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回
年度	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
1	家族関係			健康状況		家族関係		健康状況
2	健康状況			家族関係		健康状況		家族関係
3	家計の状況			家計の状況		家計の状況		家計の状況

なお、調査方法等が同一ではないので単純な比較はできませんが、国の直近の調査では上位3項目は県と同一となっています(図表1-4-2)。

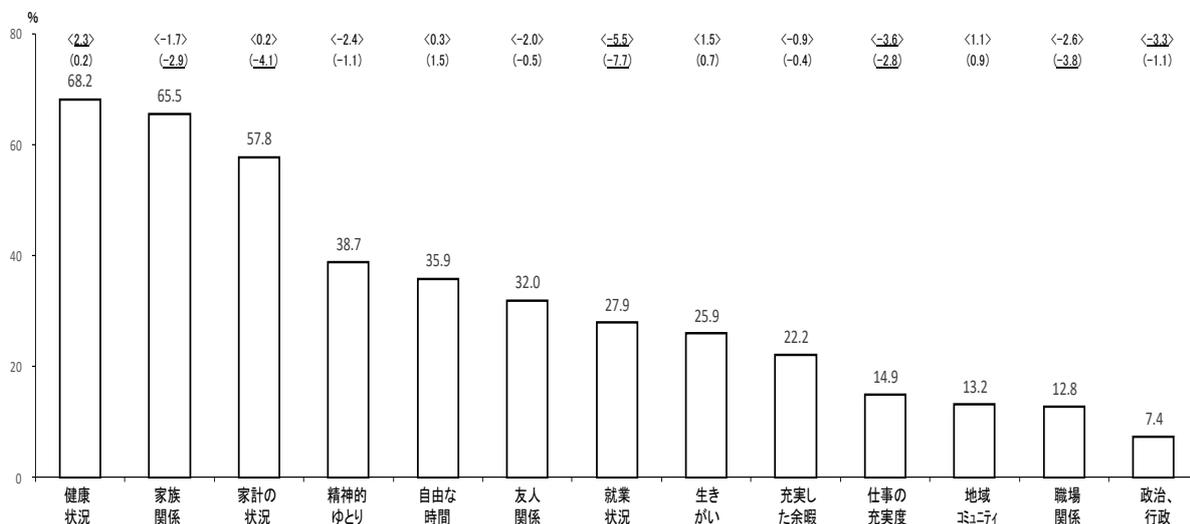
【凡例】

< >内の数字：第1回調査との差(ポイント)

()内の数字：前回調査との差(ポイント)

下線の数字：統計的に有意な差がある場合

図表1-4-1 幸福感を判断する際に重視した事項(複数回答)



図表1-4-2 参考とした国の調査

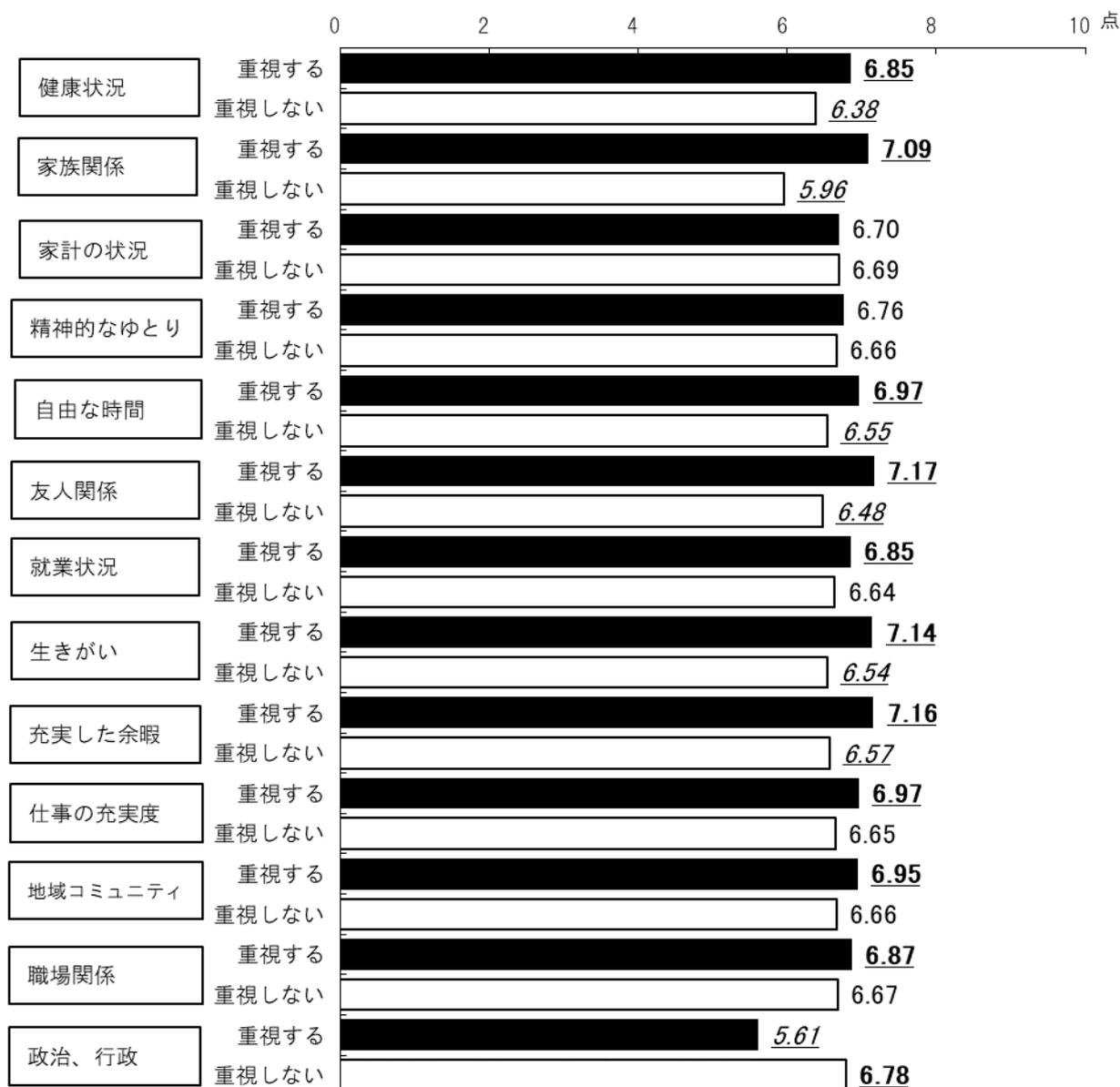
- ◎ 平成26年健康意識調査(実施主体：厚生労働省)
- ◎ 質問「前問で幸福感を判断する際に、重視した事項は何ですか。」(3つまで)
注)国の選択肢には「政治、行政」がありません。
- ◎ 調査結果
・健康状況(54.6%)、家計の状況(47.2%)、家族関係(46.8%)

2 幸福感を判断する際に重視した事項と幸福感との関係

幸福感を判断する際に重視した事項について、選択した（重視する）人の幸福感の平均値と、選択しなかった（重視しない）人の幸福感を比較したところ、概ね各事項において重視した人の幸福感は、重視しなかった人より高くなっていますが、「政治、行政」では、結果が逆転しています。（図表1-4-3）。

【凡例】 **太字**の数字：幸福感の平均値が回答者全体より高く、かつ統計的に有意な差がある項目
*斜字*の数字：幸福感の平均値が回答者全体より低く、かつ統計的に有意な差がある項目

図表 1-4-3 幸福感を判断する際に重視した事項を選択した（重視する）人と選択しない（重視しない）人の幸福感の平均値



3 幸福感を判断する際に重視した事項と幸福感の度合いとの関係

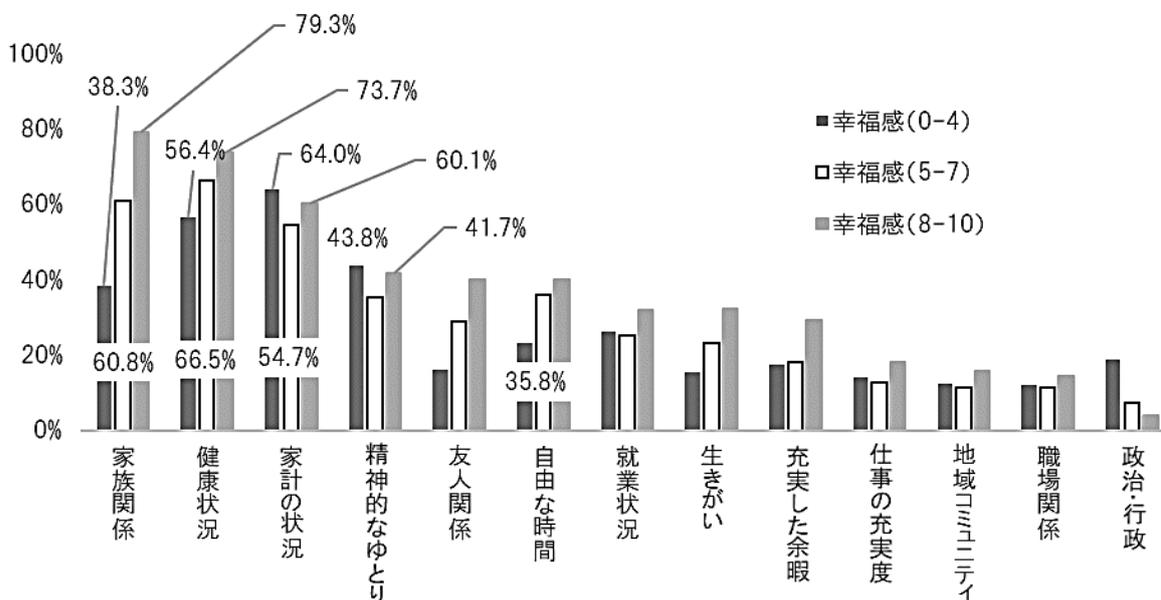
幸福感について、「0～4点」、「5～7点」、「8～10点」のグループに分けて分析を行いました。

幸福感「8～10点」のグループで選択した人が最も多かったものは「家族関係」(79.3%)、次いで「健康状況」(73.7%)、「家計の状況」(60.1%) となりました。

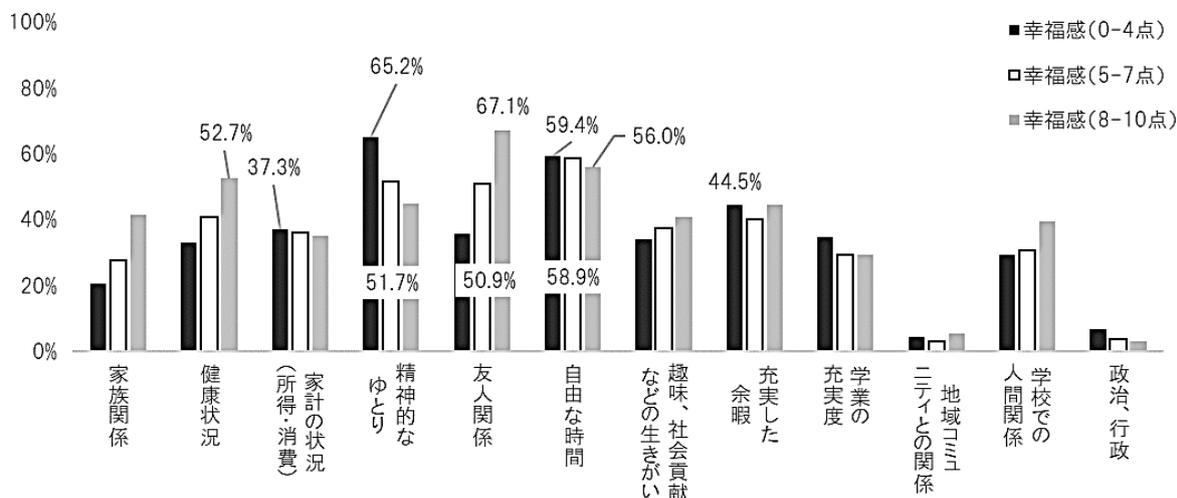
幸福感「5～7点」のグループでは、「健康状況」(66.5%)、「家族関係」(60.8%)、「家計の状況」(54.7%)の順で高くなっており、「8～10点」のグループとは順位が異なるものの、上位3項目は同じ事項でした。

幸福感「0～4点」のグループでは、「家計の状況」(64.0%)、「健康状況」(56.4%)、「精神的なゆとり」(43.8%)の順で高くなっており、他のグループでは上位3位にある「家族関係」(38.3%)が4番目となっています。4番目に高かった事項について、「8～10点」のグループでは「精神的なゆとり」(41.7%)、「5～7点」のグループでは「自由な時間」(35.8%)となっています。

図表1-4-4 幸福感を判断する際に重視した事項と幸福感



(参考) 大学生アンケート ・ 幸福感を判断する際に重視した事項と幸福感



第5節 幸福感を高める手立てと幸福感との関係

1 幸福感を高める手立ての県全体の状況

幸福感を高める手立てについては、「家族との助け合い」が66.2%、「自分自身の努力」(57.1%)、「友人や仲間との助け合い」(22.0%)の順で高くなっています。

	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回
年度	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
1	—	家族との助け合い						
2	—	自分自身の努力						
3	—	友人や仲間との助け合い	国や地方 政府から の支援	友人や仲 間との助 け合	国や地方 政府から の支援	国や地方 政府から の支援	友人や仲 間との助 け合	

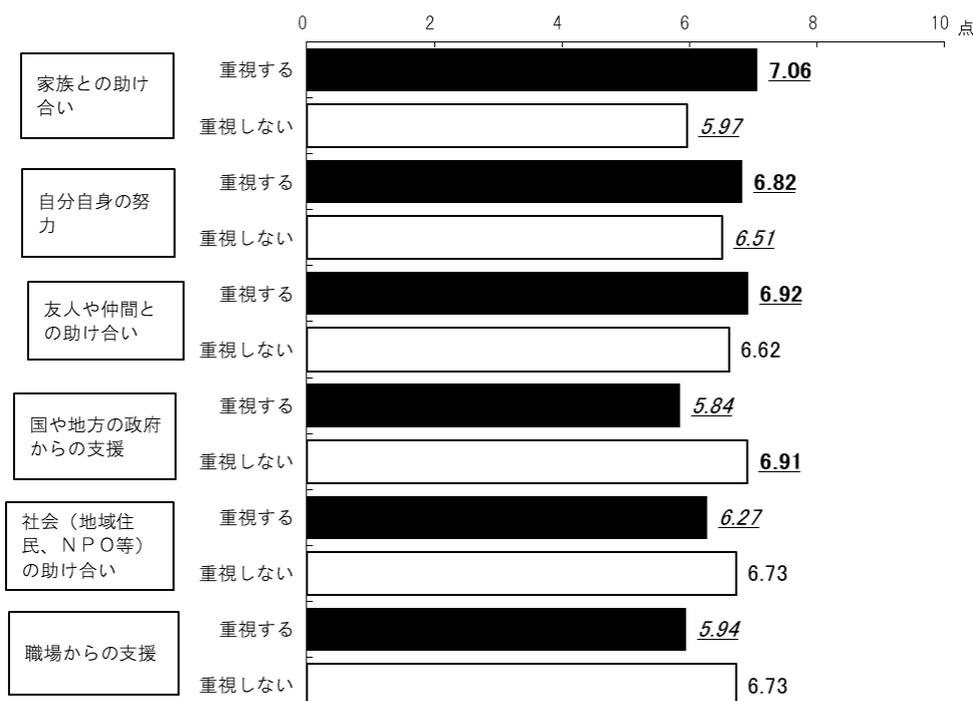
2 幸福感を高める手立てと幸福感との関係

幸福感を高める手立てについて、その事項を選択した(有効な手立てと考えた)人の幸福感の平均値と、選択しなかった(有効な手立てと考えなかった)人の幸福感の平均値を比較したところ、「家族との助け合い」、「自分自身の努力」及び「友人との助け合い」では、有効な手立てと考えた人の幸福感の平均値が、有効な手立てと考えなかった人の幸福感の平均値より高くなっています。それ以外の項目については、有効な手立てと考えた人の幸福感の平均値が、有効な手立てと考えなかった人の幸福感の平均値より低くなっています(図表 1-5-2)。

【凡例】 **太字**の数字：幸福感の平均値が回答者全体より高く、かつ統計的に有意な差がある項目

斜字の数字：幸福感の平均値が回答者全体より低く、かつ統計的に有意な差がある項目

図表 1-5-2 幸福感を高める手立てを選択した(有効な手立てと考える)人と選択しない(考えない)人の幸福感の平均値



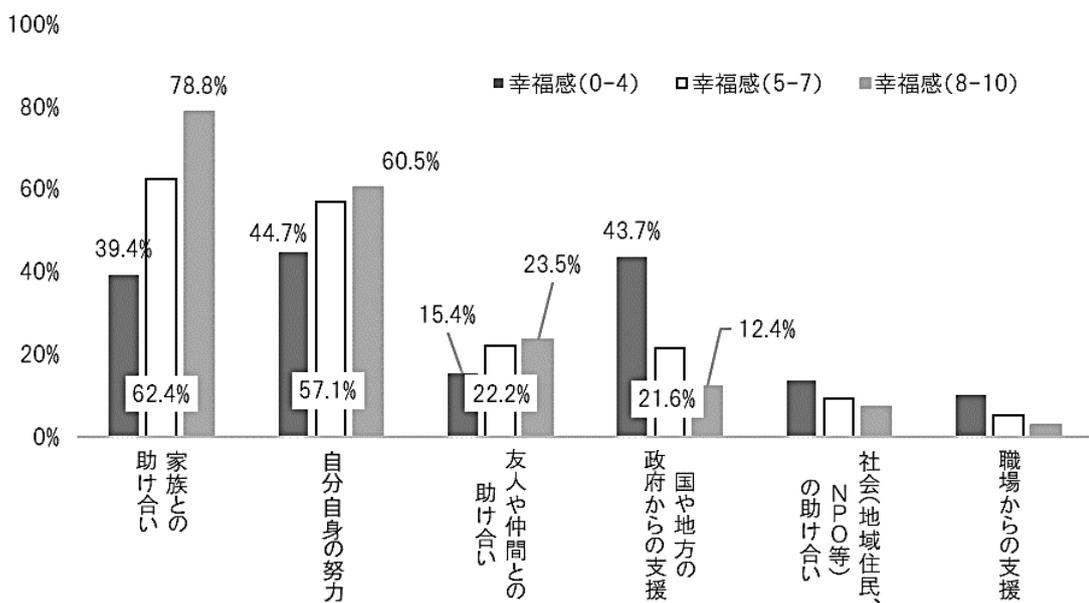
3 幸福感を高める手立てと幸福感の度合いとの関係

幸福感「8～10点」のグループで選択した人が最も多かったものは「家族との助け合い」(78.8%)、次いで「自分自身の努力」(60.5%)、「友人や仲間との助け合い」(23.5%)となりました。

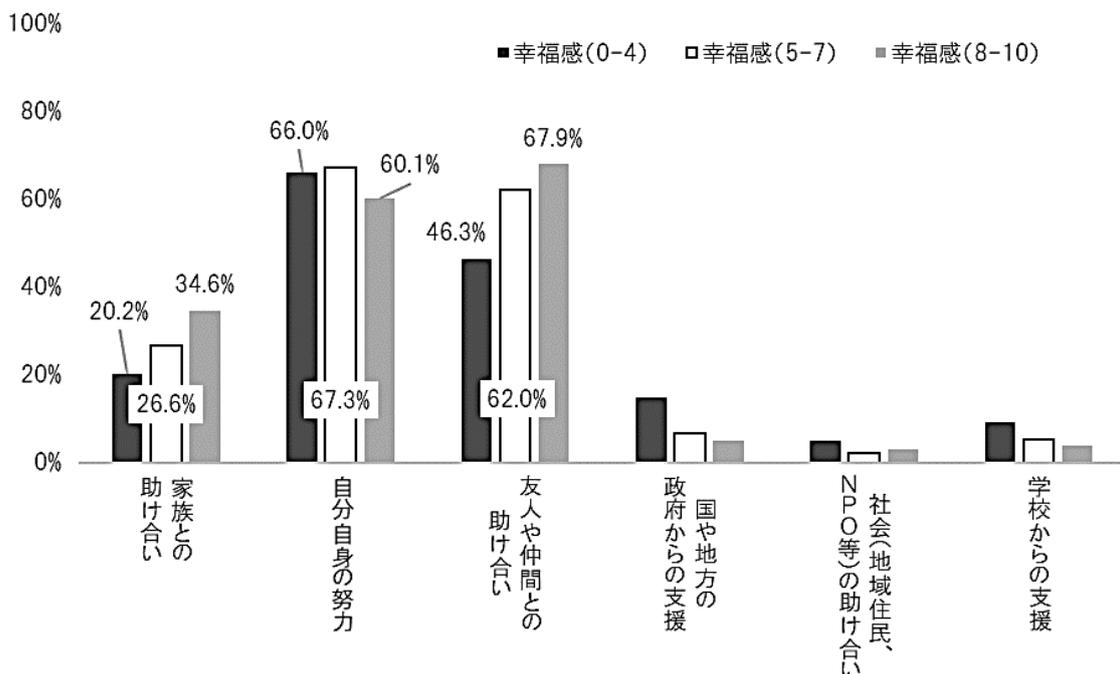
幸福感「5～7点」のグループでは、「家族との助け合い」(62.4%)、次いで「自分自身の努力」(57.1%)、「友人や仲間との助け合い」(22.2%)となり、「家族との助け合い」では「8～10点」のグループと10ポイント以上の差が生じています。

幸福感「0～4点」のグループでは、「自分自身の努力」(44.7%)、「国や地方政府からの支援」(43.7%)、次いで、「家族との助け合い」(39.4%)となり、「国や地方政府からの支援」を重視する人の割合が高くなっています。

図表 1-5-3 幸福感を高める手立てと幸福感



(参考) 大学生アンケート ・ 幸福感を高める手立てと幸福感



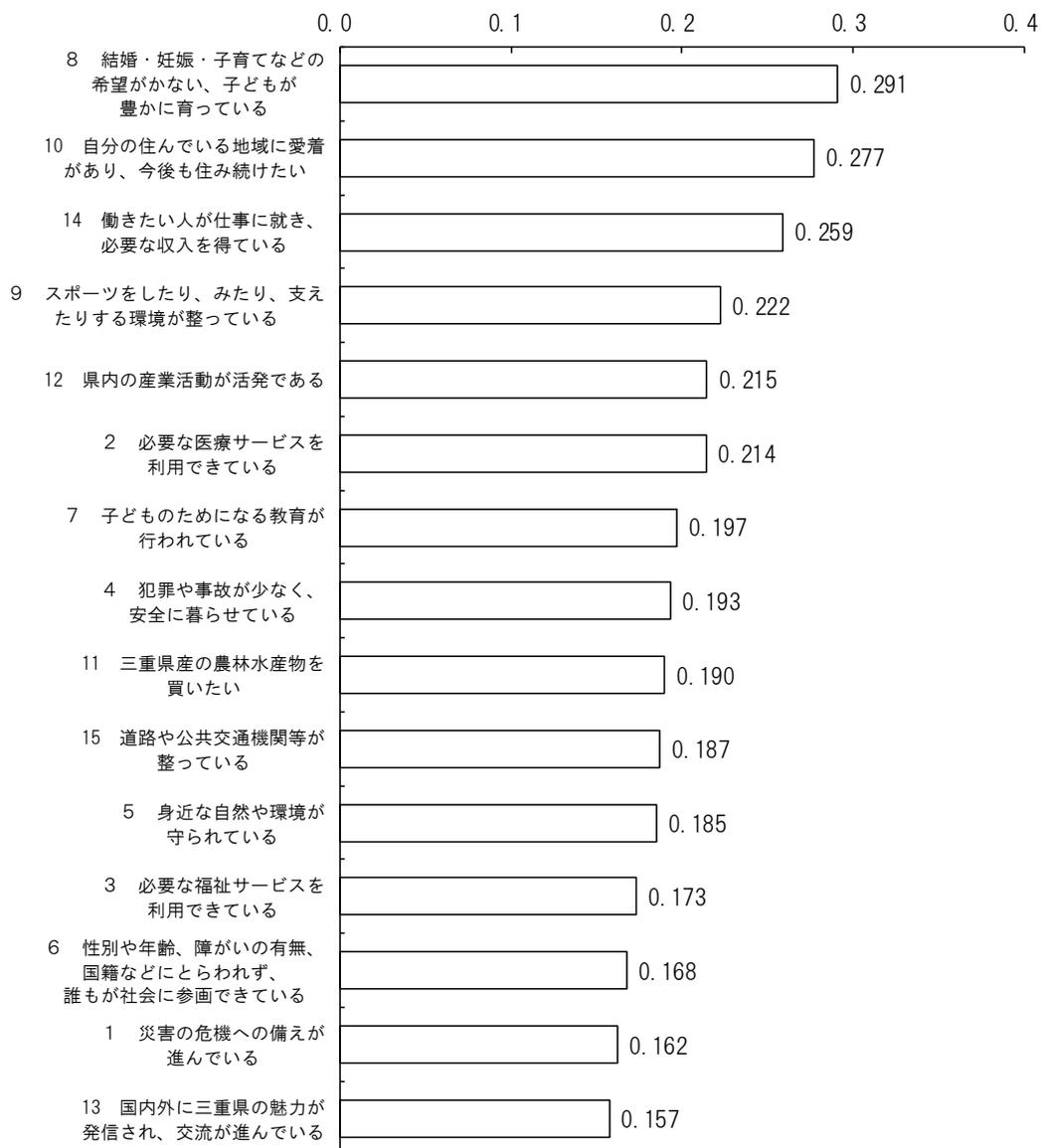
第6節 幸福感と幸福実感指標等との関係

1 幸福感と15の幸福実感指標との相関関係

幸福感と15の幸福実感指標との相関係数を算出したところ、相関係数がおおよそ0.1~0.3の範囲であることから、正の相関関係があり、幸福実感指標に係る実感が高い人ほど幸福感が高いという関係にあります。

上位3指標は、「8 結婚・妊娠・子育てなどの希望がかない、子どもが豊かに育っている」、「10 自分の住んでいる地域に愛着があり、今後も住み続けたい」、「14 働きたい人が仕事に就き、必要な収入を得ている」となっており、他の12の幸福実感指標と比較して、幸福感との相関関係が強いと言えます（図表1-6-1）。また、近年、この3つの幸福実感指標が上位を占めています。

図表1-6-1 幸福感と15の幸福実感指標との相関係数

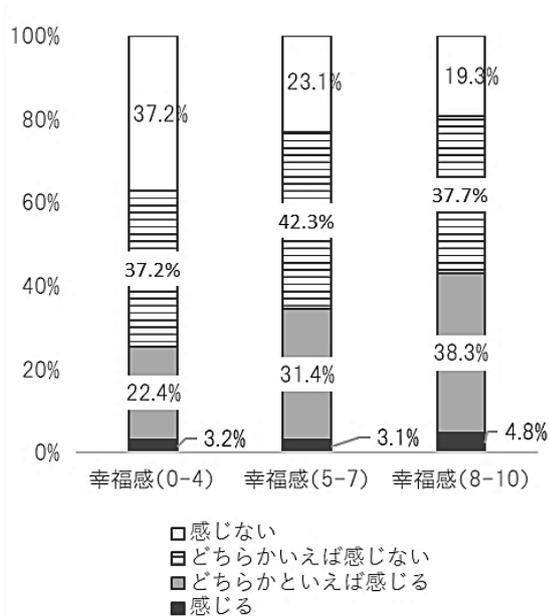


2 「幸福実感指標」と「幸福感」の関係

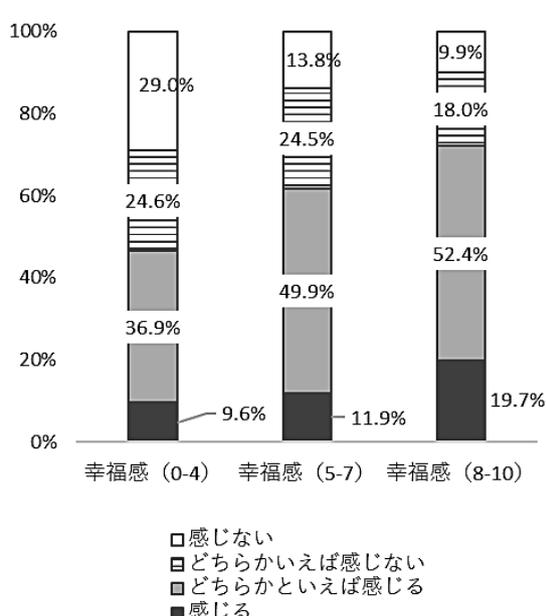
幸福感について、「0～4点」、「5～7点」、「8～10点」のグループに分けて分析を行いました。

全体を通じて、幸福感「8～10点」のグループの人は、幸福実感指標について「感じる」または「どちらかといえば感じる」を選択する割合が、「5～7点」、「0～4点」のグループより高くなっています。

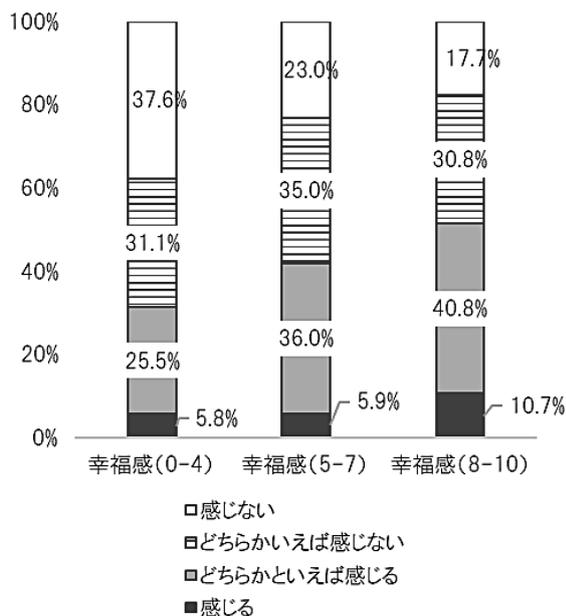
図表 1-6-2(1)災害の危機への備えが進んでいる



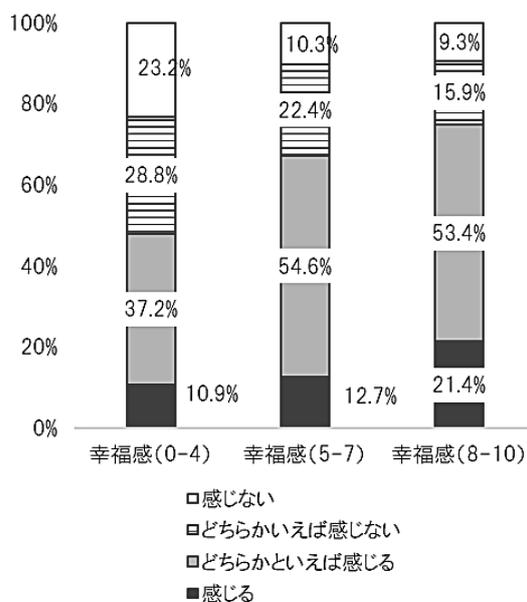
図表 1-6-2(2)必要な医療サービスを利用できている



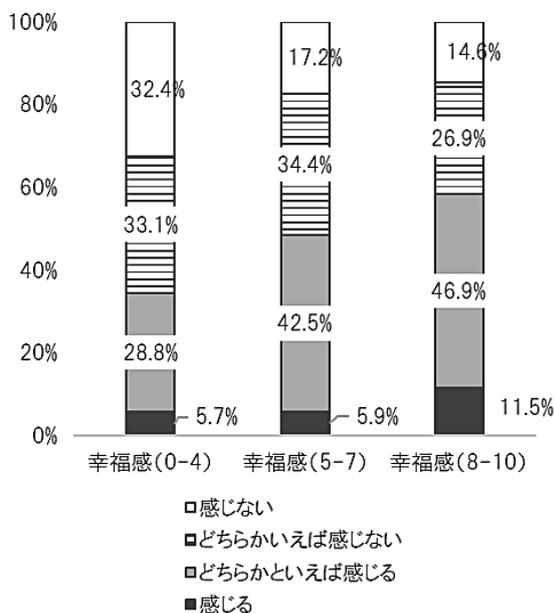
図表 1-6-2(3)必要な福祉サービスを利用できている



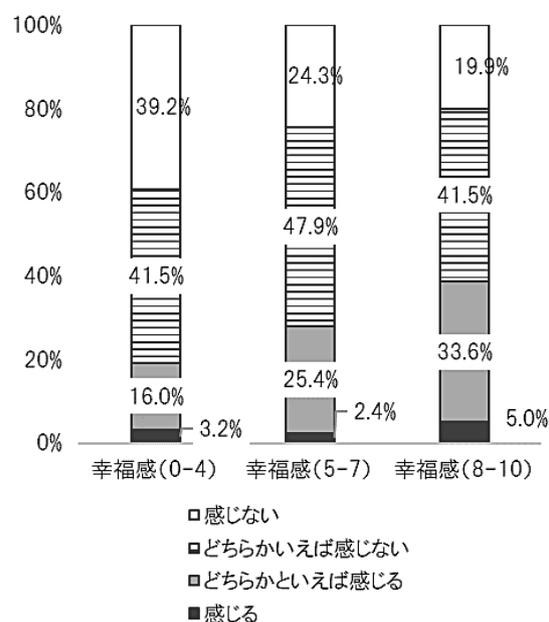
図表 1-6-2(4)犯罪や事故が少なく、安全に暮らしている



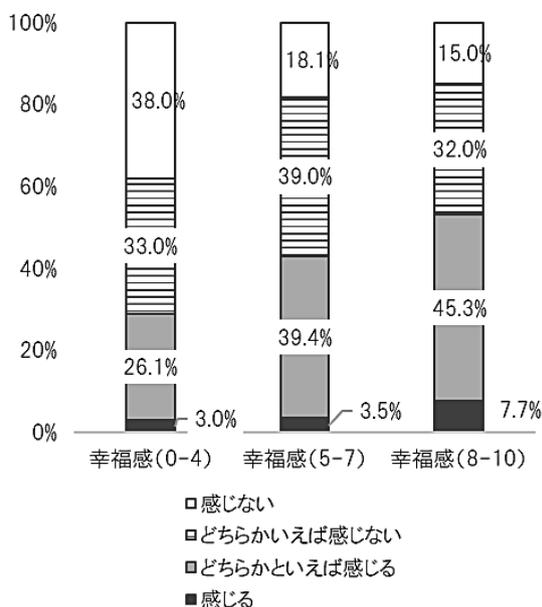
図表 1-6-2(5) 身近な自然や環境が守られている



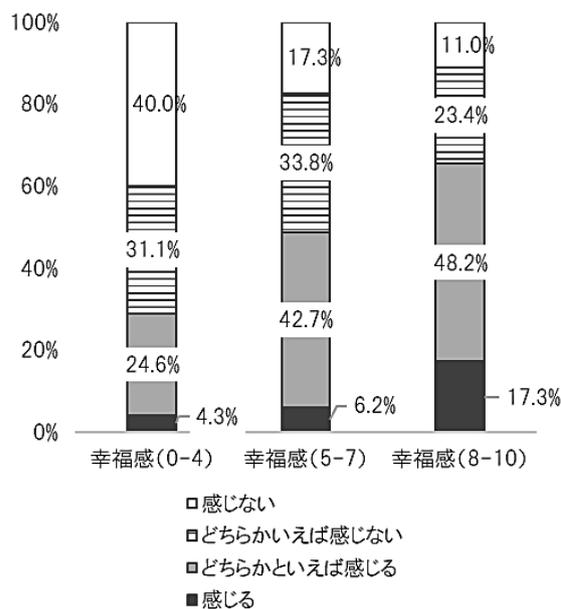
図表 1-6-2(6) 性別や年齢、障がいの有無、国籍などにとらわれず、誰もが社会に参画できている



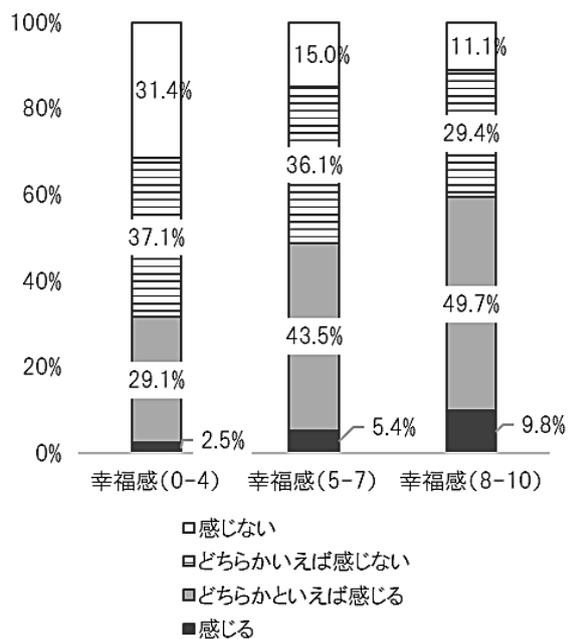
図表 1-6-2(7) 子どものためになる教育が行われている



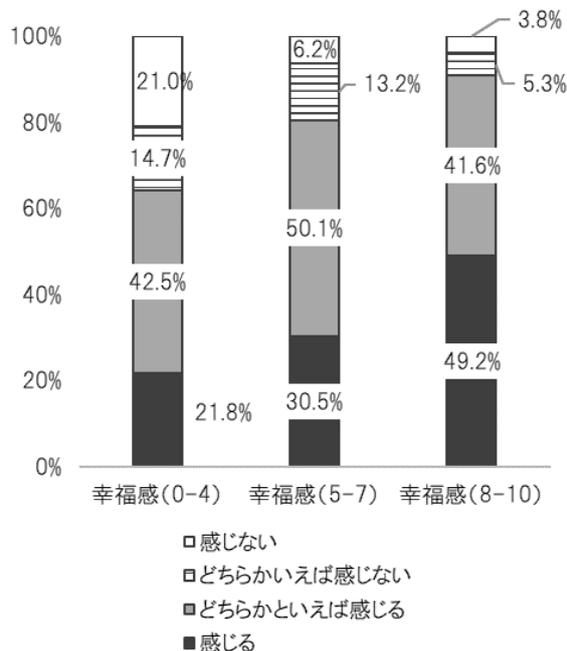
図表 1-6-2(8) 結婚・妊娠・子育てなどの希望がかない、子どもが豊かに育っている



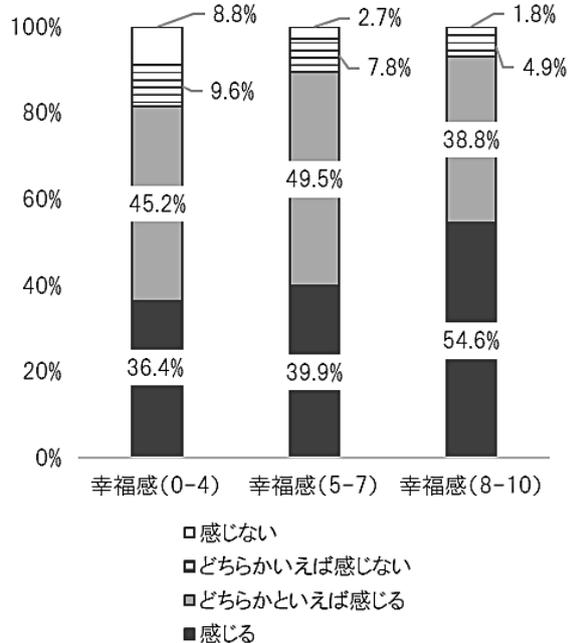
図表 1-6-2(9) スポーツをしたり、みたり、支えたりする
環境や機会が整っている



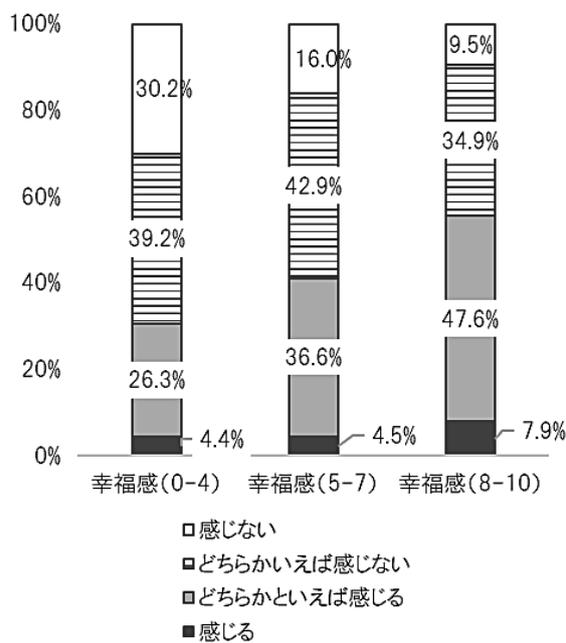
図表 1-6-2(10) 自分の住んでいる地域に愛着があり、
今後も住み続けたい



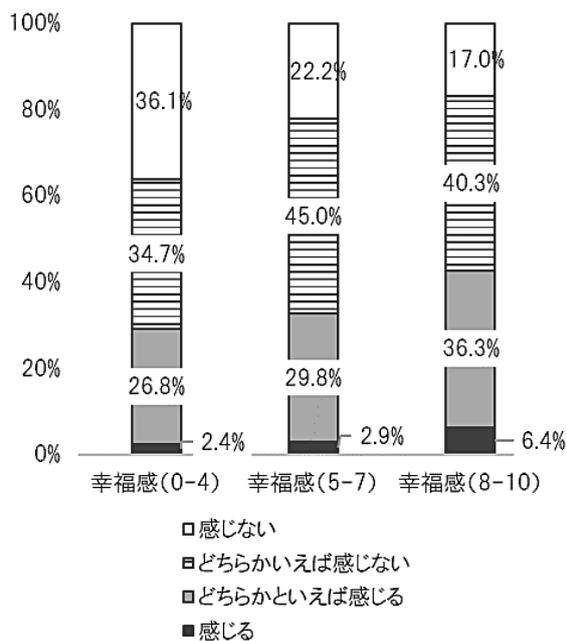
図表 1-6-2(11) 三重県産の農林水産物を買いたい



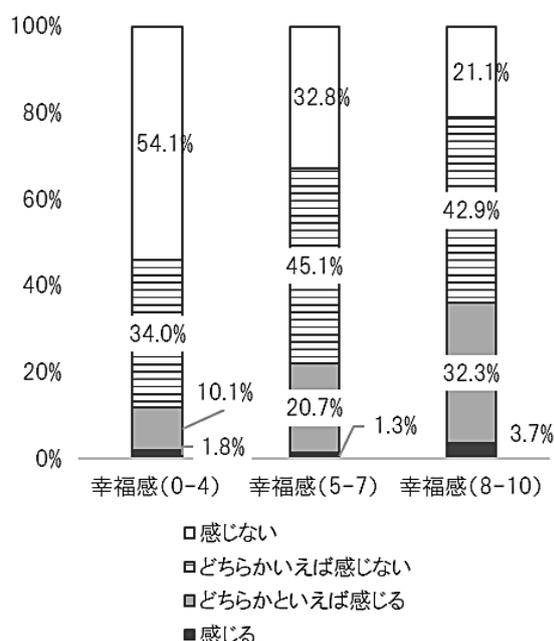
図表 1-6-2(12) 県内の産業活動が活発である



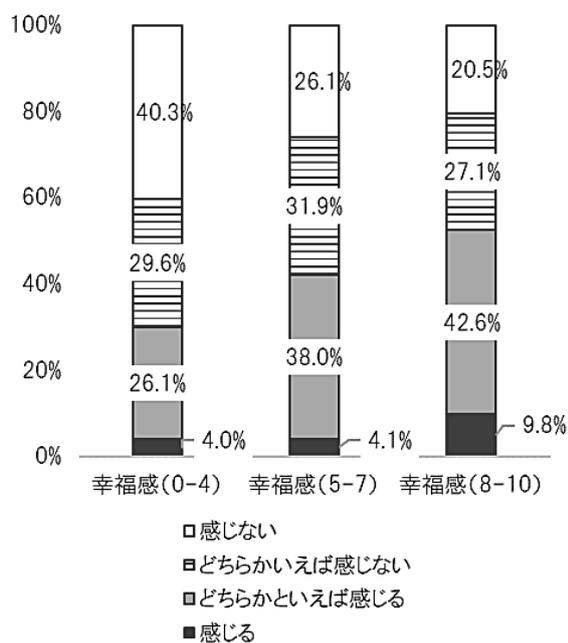
図表 1-6-2(13)国内外に三重県の魅力が発信され、交流が進んでいる



図表 1-6-2(14)働きたい人が仕事に就き、必要な収入を得ている実感



図表 1-6-2(15)道路や公共交通機関等が整っている



■幸福度の現状からの政策の示唆

これまでの「みえ県民意識調査」と同じく、今回調査においても、男性より女性、未婚より既婚、子どもがいない層より子どもがいる層の幸福度が概ね高い傾向にあること、単独世帯より複数世帯の方が幸福度が高くなること、また、世帯収入が高くなるほど幸福度も高くなる傾向があることが確認できました。

幸福度を判断する際に重視した事項の上位は、前回調査までと同様、「家族関係」や「健康状況」、「家計の状況」となり、幸福度を高める手立ての上位は、「家族との助け合い」、「自分自身の努力」「友人や仲間との助け合い」となっていました。

幸福度の度合い別に分析したところ、幸福度を判断する際に重視した事項として、幸福度の高い人、中程度の人は「家族関係」と「健康状況」の次に「家計の状況」を選んでいましたが、幸福度の低い人は「家計の状況」、「健康状況」、「精神的なゆとり」の順となっていることがわかりました。

また、幸福度の度合いと幸福度を高める手立てとの関係では、幸福度の高い人、中程度の人は「家族との助け合い」、「自分自身の努力」、「友人や仲間との助け合い」の順に選択していますが、幸福度の低い人は「自分自身の努力」に次いで「国や地方政府からの支援」を選んでいました。

幸福実感指標については、幸福実感が高い人ほど幸福度が高いという関係があり、特に他の指標と比較して

「8 結婚・妊娠・子育てなどの希望がない、子どもが豊かに育っている」、

「10 自分の住んでいる地域に愛着があり、今後も住み続けたい」、

「14 働きたい人が仕事に就き、必要な収入を得ている」

の指標に一定の相関がみられました。

これらのことから、引き続き、少子化対策や地域への愛着を高める施策、健康づくりに関する施策を進め、また、働く場を確保し、安定した収入を得られる環境を作っていくことが、県民の幸福度を高めていくことに関連すると考えられます。

さらに、友人、仲間との助け合いや精神的な支えが得られる環境、個人の努力が認められる環境づくりも必要と考えられます。

第2章

地域や社会とのつながりと幸福実感

第1節 地域活動への参加状況

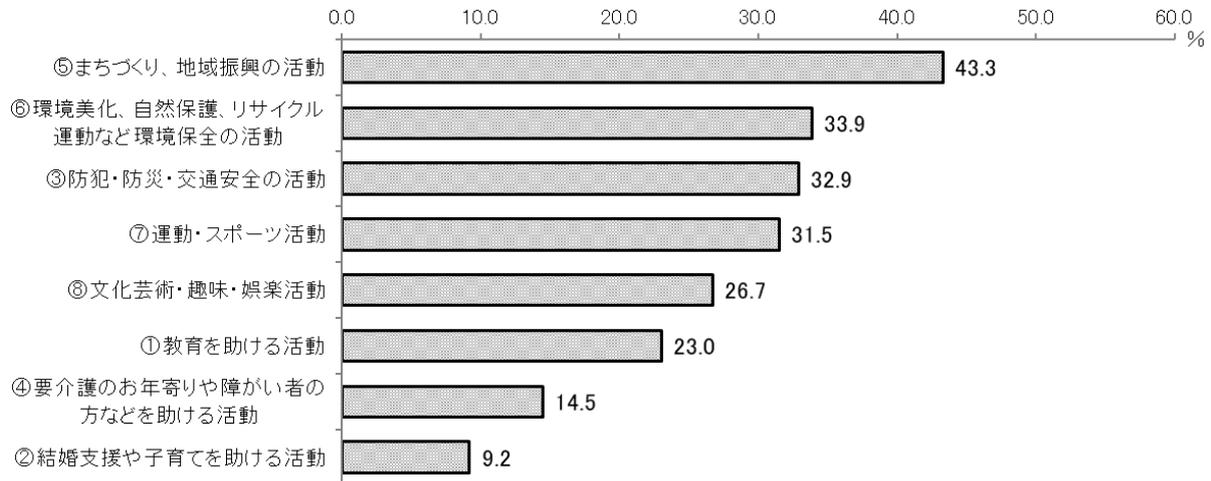
1 地域活動への参加状況

地域活動への参加状況と意欲をみると「ふだん参加している」と「参加した経験がある」を合計した『参加経験』の割合は「まちづくり、地域振興の活動」が43.3%で最も高く、「結婚支援や子育てを助ける活動」は9.2%で最も低くなっています(図表 2-1-1)。

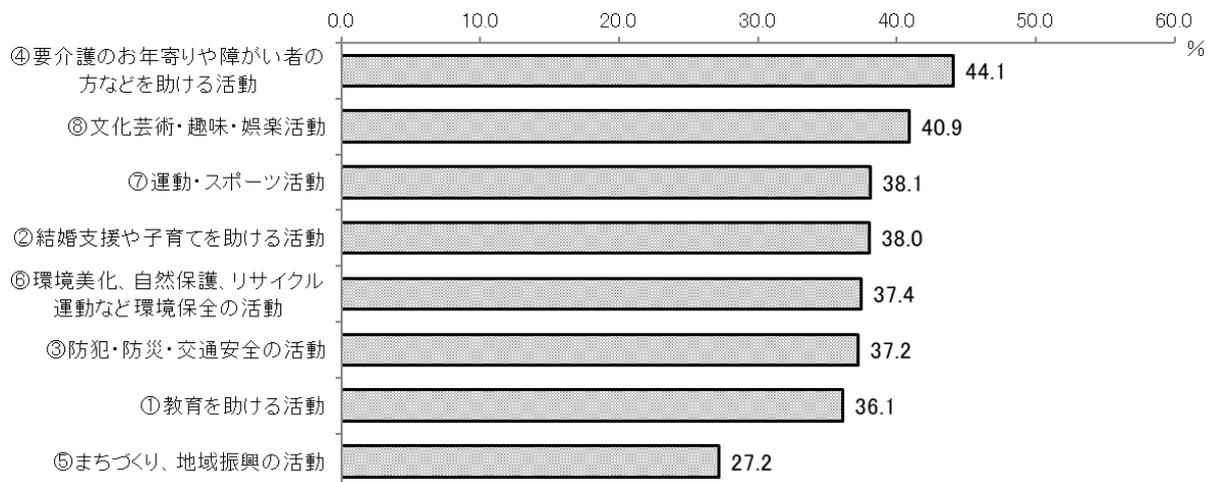
「参加したことはないが、機会があれば参加したい」(『未経験(意欲あり)』)の割合は、「要介護のお年寄りや障がい者の方などを助ける活動」が44.1%で最も高くなっています(図表 2-1-2)。

「参加したことはなく、参加したいとも思わない」(『未経験(意欲なし)』)の割合は、「結婚支援や子育てを助ける活動」が47.0%で最も高くなっています(図表 2-1-3)。

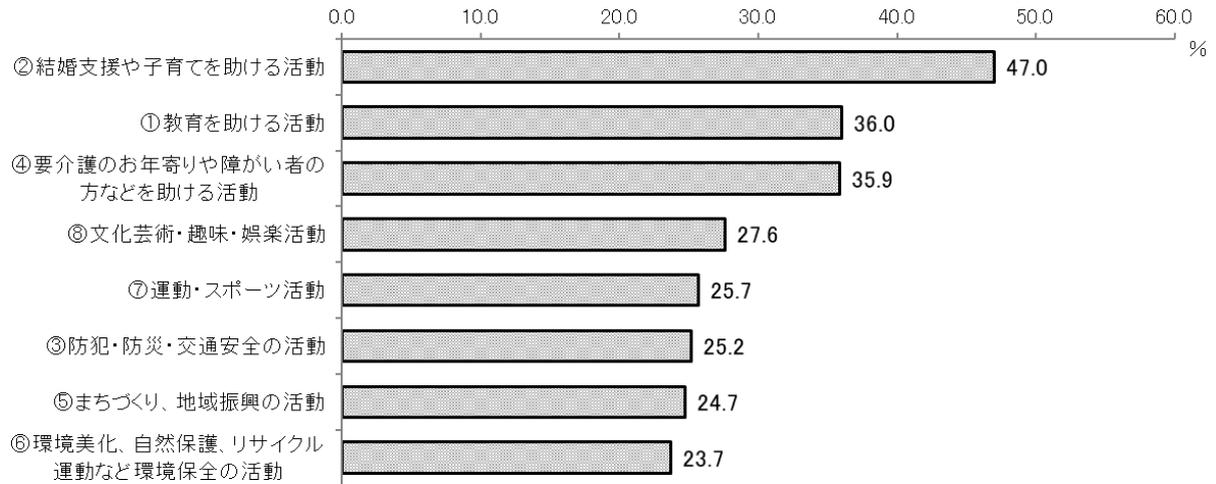
図表 2-1-1 地域活動への『参加経験』割合(項目別・割合順)



図表 2-1-2 地域活動への『未経験(意欲あり)』割合(項目別・割合順)



図表 2-1-3 地域活動への『未経験(意欲なし)』割合(項目別・割合順)



2 属性別の特徴

(1) 『参加経験』者の特徴

各活動別に見ると、男性、70歳代以上、自営・自由業、有配偶、一世代世帯では、多くの活動で『参加経験』が高くなっています(図表 2-1-4)。

性別に見ると、男性と女性では活動項目が異なる傾向にあり、世帯収入別では、300万円以上の所得層が高くなっています。

また、「結婚支援や子育てを助ける活動」では30歳代、40歳代の割合が高く、「文化芸術・趣味・娯楽活動」では、女性や専業主婦・主夫、無職、離別・死別の割合が高いなど、他の項目とは異なる特徴となっています。

図表 2-1-4 『参加経験』の割合が高い属性項目

地域活動	地域	性別	年齢	主な職業	配偶関係	世帯類型	世帯収入
教育を助ける活動	—	男性	—	自営・自由業	有配偶	三世代	400～500万円 600～800万円 1000万円以上
結婚支援や子育てを助ける活動	—	—	30歳代 40歳代	自営・自由業	—	一世代	400～500万円 1000万円以上
防犯・防災・交通安全の活動	—	男性	60歳代	農林水産業 自営・自由業	有配偶	一世代 三世代	300～400万円 400～500万円
要介護のお年寄りや障がい者の方などを助ける活動	—	—	70歳代以上	自営・自由業	—	—	—
まちづくり、地域振興の活動	伊賀 東紀州	男性	60歳代	農林水産業 自営・自由業	有配偶	三世代	300～400万円 400～500万円 600～800万円
環境美化、自然保護、リサイクル運動など環境保全の活動	伊賀	男性	70歳代以上	農林水産業	有配偶	一世代	300～400万円
運動・スポーツ活動	伊賀	男性	70歳代以上	—	有配偶	一世代	300～400万円 800～1,000万円
文化芸術・趣味・娯楽活動	—	女性	70歳代以上	自営・自由業 専業主婦・主夫 無職	離別・死別	一世代	300～400万円 400～500万円

(備考) 『参加経験』の割合が県全体より高い属性項目で、統計的に有意な差(危険率5%未満)のものを記載しています。

(2) 『未経験（意欲あり）』の特徴

多くの項目で、30歳代、50～60歳代の層、正規職員、パート・アルバイト・派遣社員、二世帯世帯、世帯収入では500万円以上600万円未満、800万円以上の所得層が高くなっています(図表 2-1-5)。

図表 2-1-5 『未経験（意欲あり）』の割合が高い属性項目

地域活動	地域	性別	年齢	主な職業	配偶関係	世帯類型	世帯収入
教育を助ける活動	—	—	30歳代 50歳代 60歳代	正規職員 パート・バイト・派遣	有配偶	—	500～600万円 800～1000万円 1000万円以上
結婚支援や子育てを助ける活動	—	女性	30歳代 40歳代 50歳代	自営・自由業 正規職員 パート・バイト・派遣	有配偶	二世帯 三世帯	400～500万円 500～600万円 800～1000万円 1000万円以上
防犯・防災・交通安全の活動	—	—	30歳代 50歳代	正規職員 その他の職業	未婚	—	500～600万円
要介護のお年寄りや障がい者の方などを助ける活動	—	—	50歳代 60歳代	正規職員 パート・バイト・派遣	有配偶	二世帯	800～1000万円
まちづくり、地域振興の活動	中南勢	—	30歳代 50歳代	正規職員 パート・バイト・派遣	未婚	—	1000万円以上
環境美化、自然保護、リサイクル運動など環境保全の活動	—	—	30歳代 40歳代 50歳代	正規職員 パート・バイト・派遣 その他の職業	未婚	二世帯	800～1000万円
運動・スポーツ活動	—	—	30歳代 50歳代 60歳代	正規職員 パート・バイト・派遣 その他の職業	—	二世帯	500～600万円 1,000万円以上
文化芸術・趣味・娯楽活動	—	男性	30歳代 40歳代 50歳代 60歳代	正規職員 パート・バイト・派遣 その他の職業	未婚 有配偶	二世帯	500～600万円 600～800万円 800～1,000万円 1,000万円以上

(備考) 『未経験（意欲あり）』の割合が県全体より高い属性項目で、統計的に有意な差（危険率5%未満）のものを記載しています。

(3) 『未経験（意欲なし）』の特徴

多くの項目で、女性、20歳代の若年層、無職、未婚、離別・死別、単身世帯、世帯収入 200 万円未満の割合が高くなっています(図表 2-1-6)。

図表 2-1-6 『未経験（意欲なし）』の割合が高い属性項目

地域活動	地域	性別	年齢	主な職業	配偶関係	世帯類型	世帯収入
教育を助ける活動	—	—	—	無職	未婚 離別・死別	単身世帯	100万円未満 100～200万円
結婚支援や子育てを助ける活動	—	男性	60歳代	無職	未婚	—	100万円未満 100～200万円 200～300万円
防犯・防災・交通安全の活動	中南勢	女性	20歳代	専業主婦・主夫	未婚 離別・死別	単身世帯	100万円未満 100～200万円
要介護のお年寄りや障がい者の方などを助ける活動	—	—	20歳代 30歳代	—	—	—	—
まちづくり、地域振興の活動	中南勢	女性	20歳代 40歳代	無職	未婚	—	100万円未満 100～200万円
環境美化、自然保護、リサイクル運動など環境保全の活動	—	女性	20歳代 40歳代	専業主婦・主夫	未婚 離別・死別	単身世帯	100万円未満 100～200万円
運動・スポーツ活動	—	女性	20歳代	無職	未婚 離別・死別	単身世帯	100万円未満 100～200万円
文化芸術・趣味・娯楽活動	—	—	—	無職	—	—	100万円未満 100～200万円

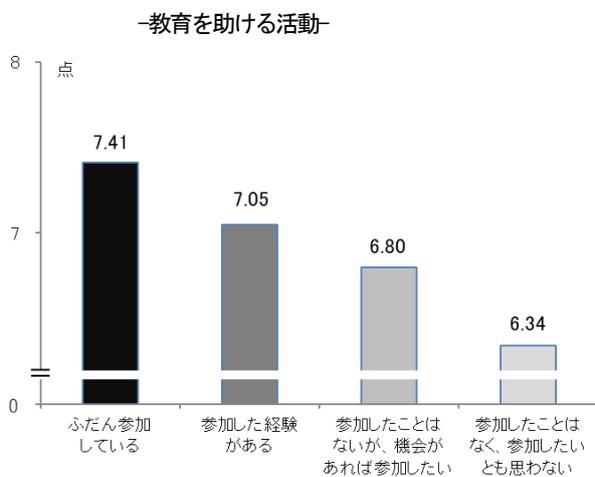
(備考) 『未経験（意欲なし）』の割合が県全体より高い属性項目で、統計的に有意な差（危険率5%未満）のものを記載しています。

第2節 地域活動への参加状況と幸福感の関係

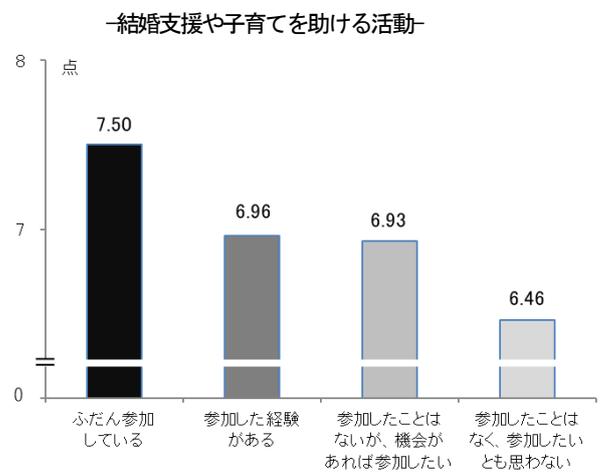
地域活動への参加状況・意欲と幸福感の関係を見ると、全ての活動で「ふだん参加している」方の幸福感の平均値が最も高く、「参加したくない」と回答した方の幸福感の平均値が最も低くなっており、全体的に地域活動への参加度合や意欲が高まるにつれ、幸福感の平均値も高まる傾向があります(図表 2-2-1～図表 2-2-8)。

なお、「ふだん参加している」と「参加したくない」の平均値の差は、「運動・スポーツ活動」が最も大きく(1.09点)なっています(図表 2-2-7)。

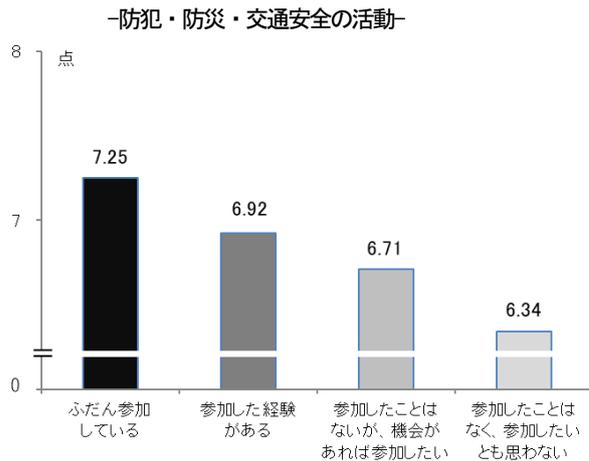
図表 2-2-1 幸福感の平均値(参加状況・意欲別)



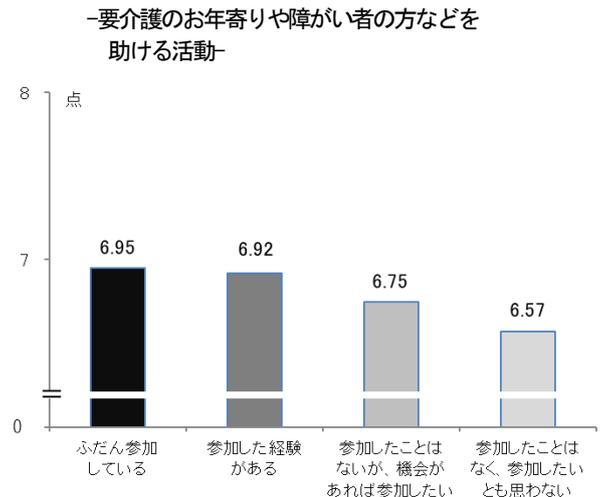
図表 2-2-2 幸福感の平均値(参加状況・意欲別)



図表 2-2-3 幸福感の平均値(参加状況・意欲別)

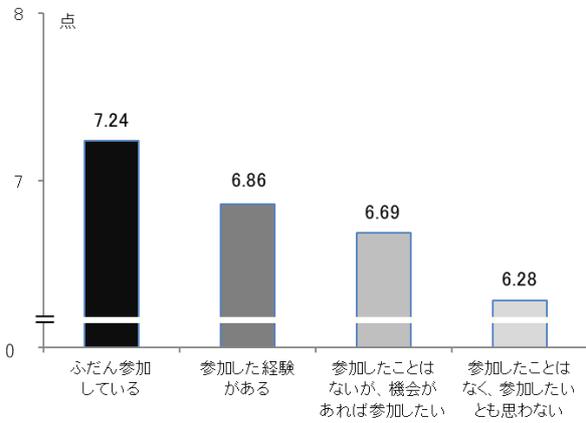


図表 2-2-4 幸福感の平均値(参加状況・意欲別)



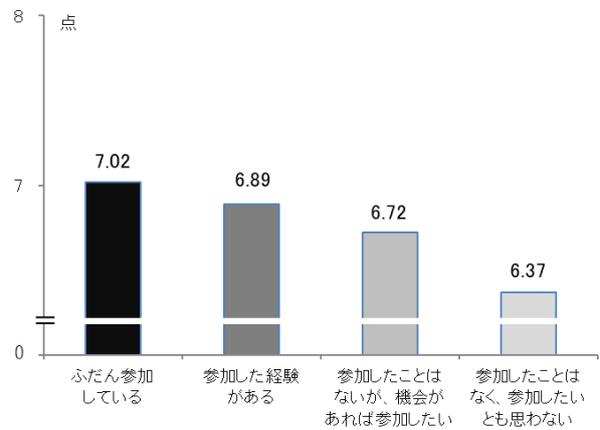
図表 2-2-5 幸福感の平均値(参加状況・意欲別)

-まちづくり、地域振興の活動-



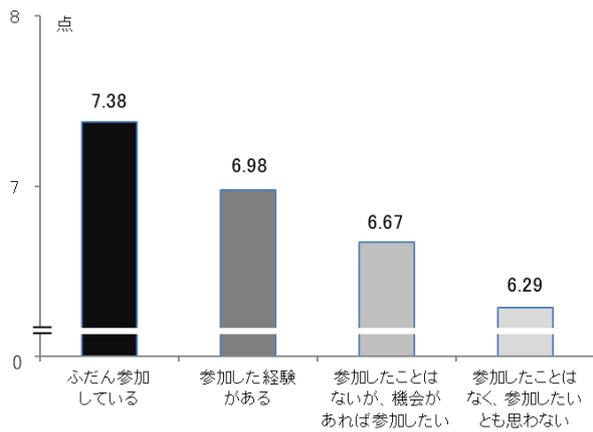
図表 2-2-6 幸福感の平均値(参加状況・意欲別)

-環境美化、自然保護、リサイクル運動など環境保全の活動-



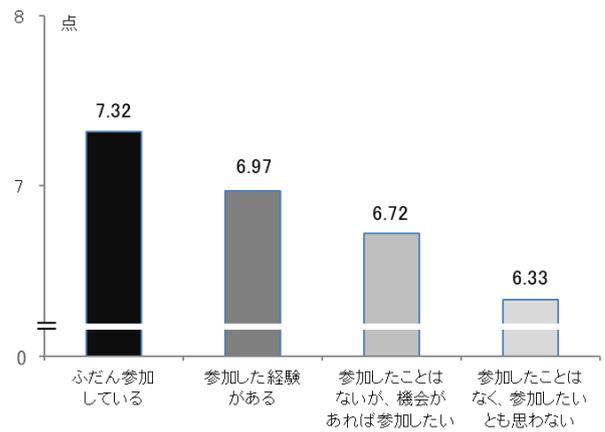
図表 2-2-7 幸福感の平均値(参加状況・意欲別)

-運動・スポーツ活動-



図表 2-2-8 幸福感の平均値(参加状況・意欲別)

-文化芸術・趣味・娯楽活動-



第3節 地域活動への参加状況と幸福実感指標との関係

15の幸福実感指標の『実感している層』と『実感していない層』(※1)それぞれが、関連があると思われる地域活動にどの程度参加しているか、参加意欲があるのかをクロス集計したところ、すべての項目で『実感している層』の『参加経験』が『実感していない層』よりも高くなっています(図表 2-3-1～図表 2-3-9)。

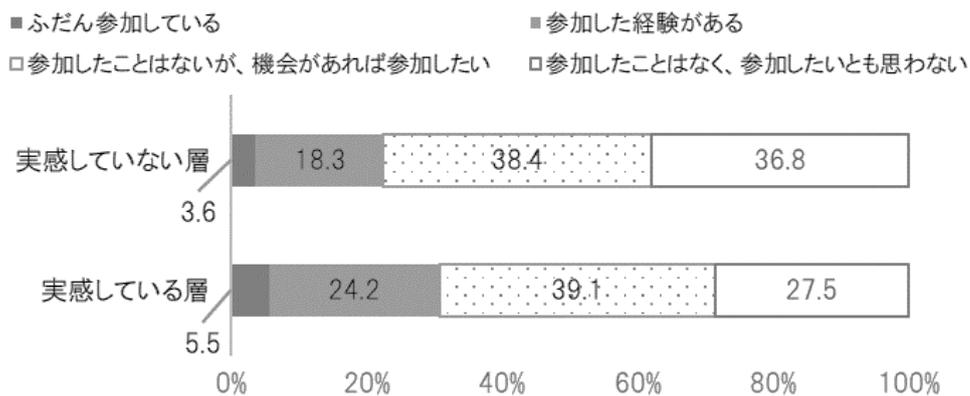
また、『参加意欲あり』(※2)についても、「身近な自然や環境を守る取組が広がっている」と「環境美化、自然保護、リサイクル運動など環境保全の活動」以外のすべてにおいて『実感している層』が『実感していない層』よりも高くなっています(図表 2-3-8)。

※1 『実感している層』『実感していない層』…政策分野ごとの地域や社会の状況について、実感している人、実感していない人

※2 『参加意欲あり』…『参加経験』に『未経験(意欲あり)』を加えた割合

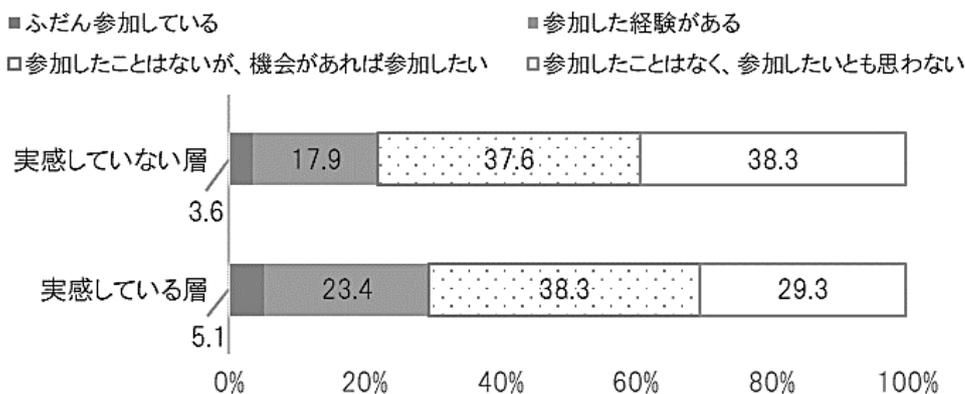
(1) 「子どものためになる教育が行われている」と「教育を助ける活動」

図表 2-3-1 幸福実感指標「子どものためになる教育が行われている」の実感別の「教育を助ける活動」への参加割合



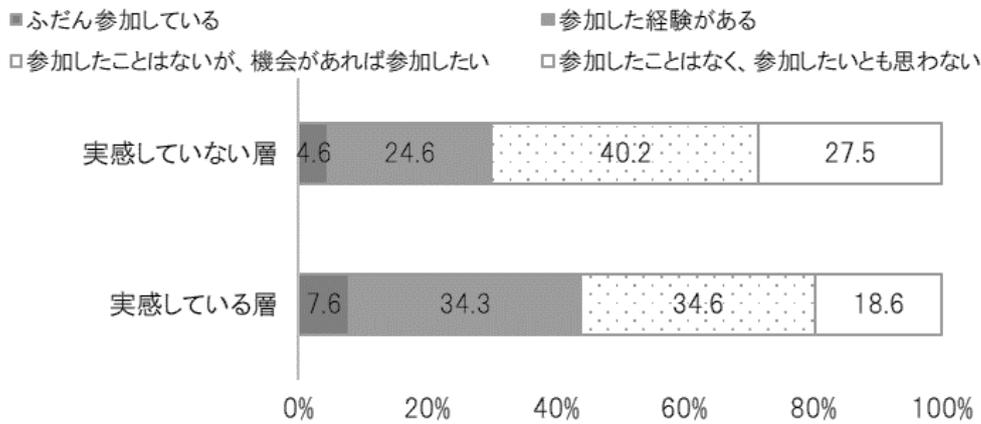
(2) 「結婚・妊娠・子育てなどの希望がかない、子どもが豊かに育っている」と「結婚支援や子育てを助ける活動」

図表 2-3-2 幸福実感指標「結婚・妊娠・子育てなどの希望がかない、子どもが豊かに育っている」の実感別の「結婚支援や子育てを助ける活動」への参加割合



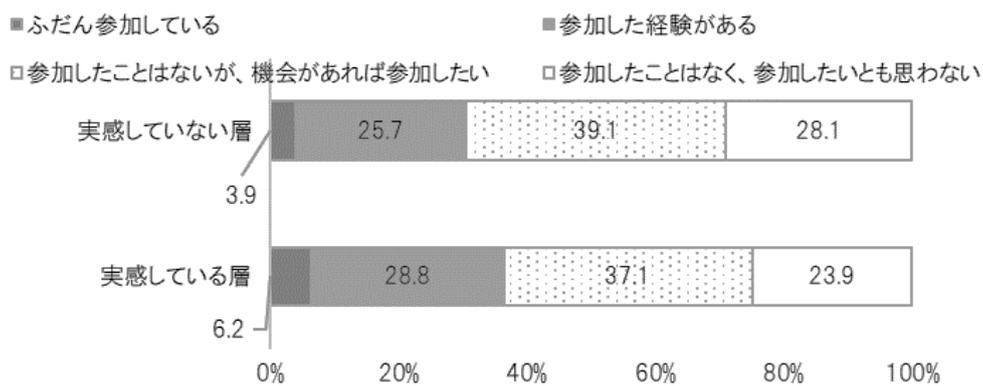
(3) 「災害等の危機への備えが進んでいる」と「防犯・防災・交通安全の活動」

図表 2-3-3 幸福実感指標「災害等の危機への備えが進んでいる」の実感別の「防犯・防災・交通安全の活動」への参加割合



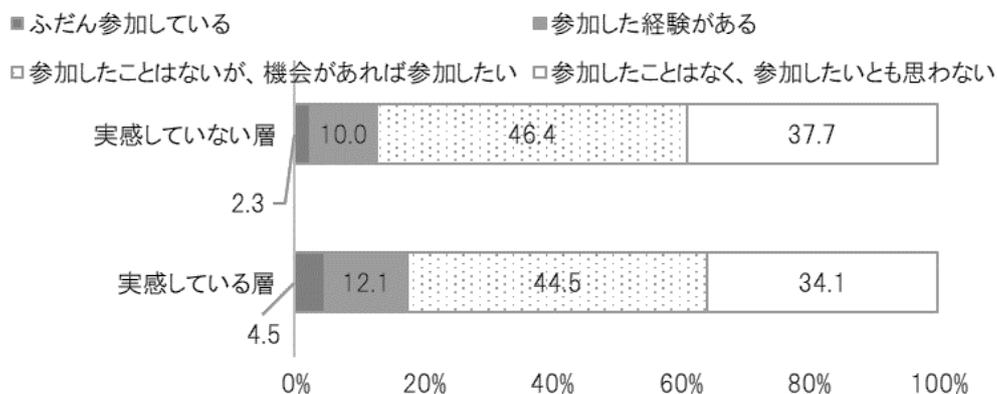
(4) 「犯罪や事故が少なく、安全に暮らせている」と「防犯・防災・交通安全の活動」

図表 2-3-4 幸福実感指標「犯罪や事故が少なく、安全に暮らせている」の実感別の「防犯・防災・交通安全の活動」への参加割合



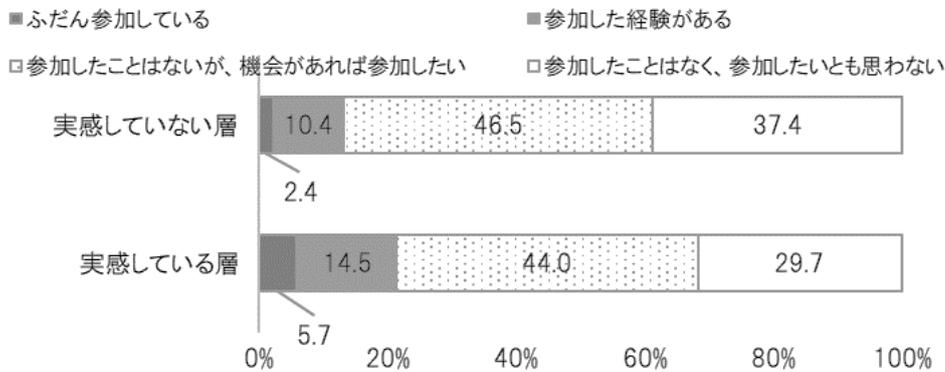
(5) 「必要な医療サービスを利用できている」と「要介護のお年寄りや障がい者の方などを助ける活動」

図表 2-3-5 幸福実感指標「必要な医療サービスを利用できている」の実感別の「要介護のお年寄りや障がい者の方などを助ける活動」への参加割合



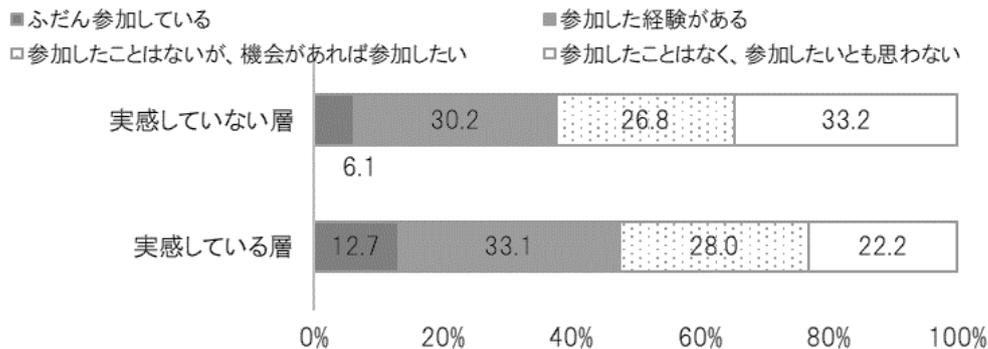
(6) 「必要な福祉サービスを利用できている」と「要介護のお年寄りや障がい者の方などを助ける活動」

図表 2-3-6 幸福実感指標「必要な福祉サービスを利用できている」の実感別の「要介護のお年寄りや障がい者の方などを助ける活動」への参加割合



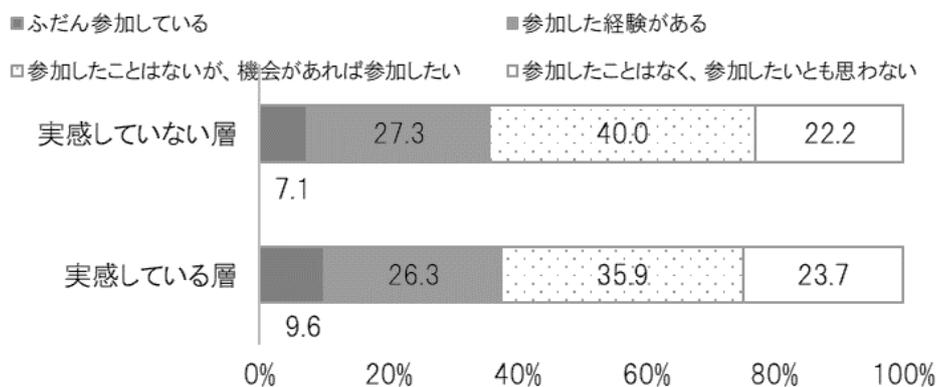
(7) 「自分の住んでいる地域に愛着があり、今後も住み続けたい」と「まちづくり、地域振興の活動」

図表 2-3-7 幸福実感指標「自分の住んでいる地域に愛着があり、今後も住み続けたい」の実感別の「まちづくり、地域振興の活動」への参加割合



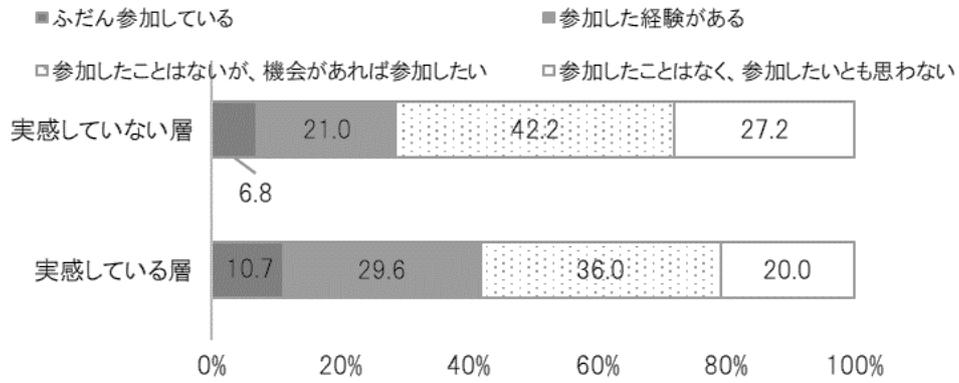
(8) 「身近な自然や環境が守られている」と「環境美化、自然保護、リサイクル運動など環境保全の活動」

図表 2-3-8 幸福実感指標「身近な自然や環境が守られている」の実感別の「環境美化、自然保護、リサイクル運動など環境保全の活動」への参加割合



(9) 「スポーツをしたり、みたり、支えたりする環境や機会が整っている」と「運動・スポーツ活動」

図表 2-3-9 幸福実感指標「スポーツをしたり、みたり、支えたりする環境や機会が整っている」の実感別の「運動・スポーツ活動」への参加割合



第4節 人とのつながりと幸福感

安心感のある暮らしを送るために必要な「人とのつながり」はどのようなものかという質問に対する選択と、幸福感のクロス集計を行ったところ、幸福感が高い人は、人とのつながりの選択肢として、近所づきあいや町内会等のつながり、学校や趣味・サークルなどのつながりを選んだ割合が、全体より高くなっていること、逆に、幸福感が低い人は、それらのつながりを選んだ割合が全体より低くなっていることがわかりました。

図表 2-4-1 人とのつながりと幸福感

【検定】
比率(母集団内)検定 有意水準~1% ▲▼
両側 有意水準~5% △▽

(%)

	合計	職場におけるつながり	学校におけるつながり(同窓会も含む)	趣味のサークルなどにおけるつながり	近所づきあい	町内会・自治会などの地縁組織におけるつながり	NPO・ボランティア団体等におけるつながり	フェイスブック・ラインなどのソーシャルメディアにおけるつながり	その他	わからない	不明	
全体	5,044	26.3	8.9	19.7	61.5	35.8	2.6	1.5	4.2	4.5	7.4	
現在の幸福感	10点	327	25.1	8.3	18.0	60.6	35.2	3.4	2.1	4.6	3.7	10.1
	9点	377	22.5	△ 12.2	22.5	△ 67.6	36.9	2.1	0.5	▲ 6.9	▽ 2.4	5.6
	8点	1,114	28.3	9.8	△ 22.4	61.1	△ 38.8	2.6	1.2	4.4	▽ 3.1	▽ 5.6
	7点	1,101	27.6	10.0	20.7	61.3	38.4	2.8	2.0	3.6	▽ 2.9	6.4
	6点	597	29.6	8.4	21.4	64.3	35.0	2.3	1.2	3.4	4.7	6.0
	5点	848	23.6	▼ 6.1	▼ 14.7	62.4	34.9	2.4	1.5	3.1	▲ 6.5	▲ 9.9
	4点	223	▽ 19.7	8.5	20.6	65.5	31.4	1.8	1.8	5.4	7.2	6.3
	3点	194	22.2	9.8	14.9	▼ 46.4	▼ 25.3	3.1	2.6	6.2	▲ 9.8	▲ 13.4
	2点	42	26.2	7.1	11.9	54.8	33.3	▲ 9.5	2.4	2.4	9.5	9.5
	1点	38	34.2	5.3	15.8	52.6	▽ 18.4	0.0	2.6	2.6	10.5	10.5
0点	28	14.3	7.1	7.1	▽ 42.9	28.6	▲ 10.7	△ 7.1	7.1	▲ 21.4	7.1	

■地域活動への参加状況等からの政策の示唆

地域活動への参加状況と幸福感の関係をみると、地域活動への参加度合いや意欲が高まるにつれ、幸福感も高まる傾向がみられました。

また、幸福実感指標について実感している層は、関連する地域活動に参加している割合が、実感していない層よりも高くなっていました。

さらに、幸福感が高い人は、人とのつながりの選択肢として、近所づきあいや町内会等のつながり、学校や趣味・サークルなどのつながりを選んだ割合が、全体より高くなっていること、逆に、幸福感が低い人は、それらのつながりを選んだ割合が全体より低くなっている傾向がありました。

これらのことから、地域活動に参加することと幸福感や、地域等の人とのつながりと幸福感との間に深い関係があることが考えられ、地域活動への参加を促進することが幸福感を高めることにつながる可能性があります。特に、各活動への参加理由の主なものは、「参加するよう要請があったから」、「周囲の人に誘われたから」であったことから(第8回みえ県民意識調査<集計結果報告書>)、家族や地域の方から、地域活動への参加を促されることで、地域活動への参加が促進され、幸福感が高められる可能性があると考えられます。

第 3 章

少子化対策に関する分析

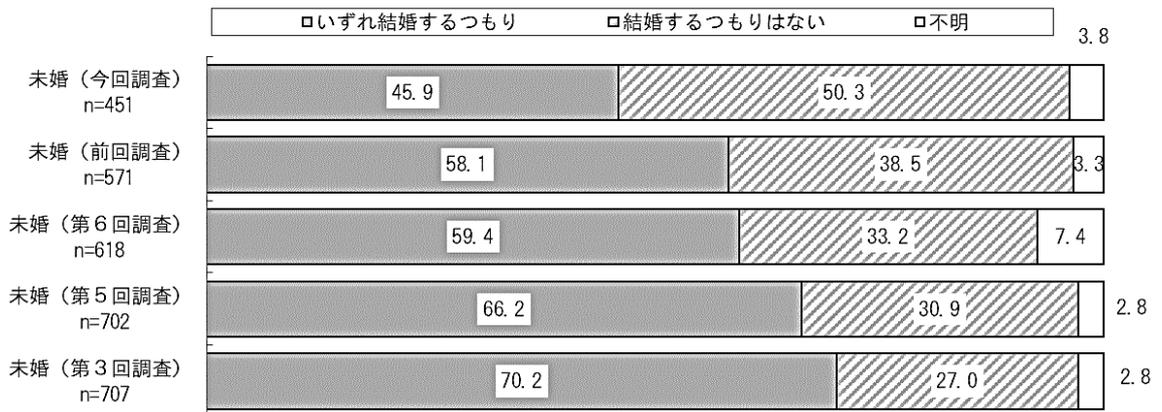
第1節 結婚や家族に関する現状と分析

1 結婚に対する考え方

(1) 過去からの推移

結婚に対する考え方について、未婚の「いずれ結婚するつもり」を選んだ割合が、第3回調査以降、次第に低くなっています。

図表 3-1-1 結婚に対する考え方

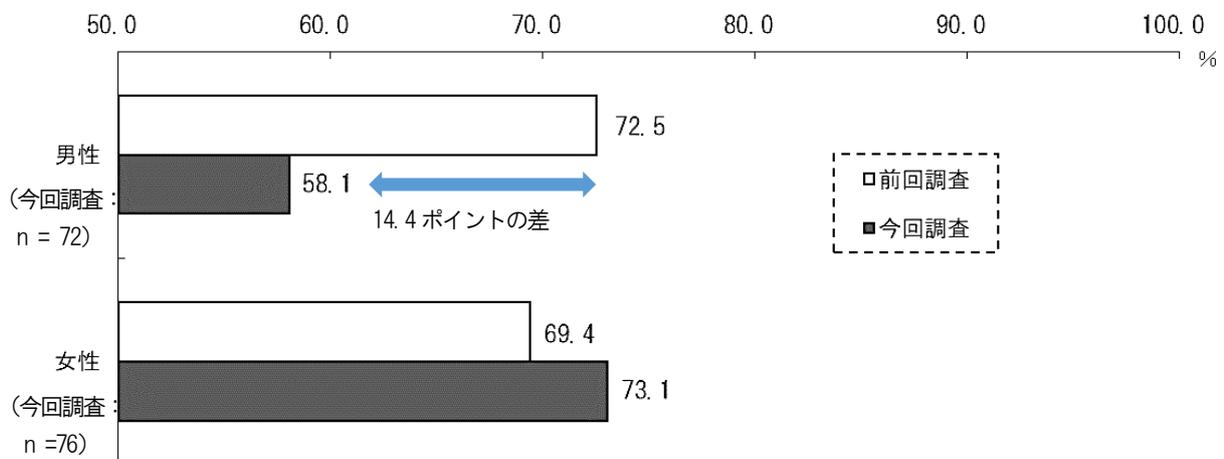


※第1回、第2回及び第4回では結婚の意向について質問していないため、上記のような比較となっています。

(2) 結婚への希望×性別×未婚 (18~40 歳代)

結婚に対する考え方について、18~40 歳代の未婚に限定して分析してみると、男性の 58.1%、女性の 73.1%が「いずれ結婚するつもり」と回答しています。女性については、前回調査より 3.7 ポイント高くなっており、男性は 14.4 ポイント低くなっています (図表 3-1-2)。

図表 3-1-2 未婚者の結婚意向 (18~40 歳代の未婚)

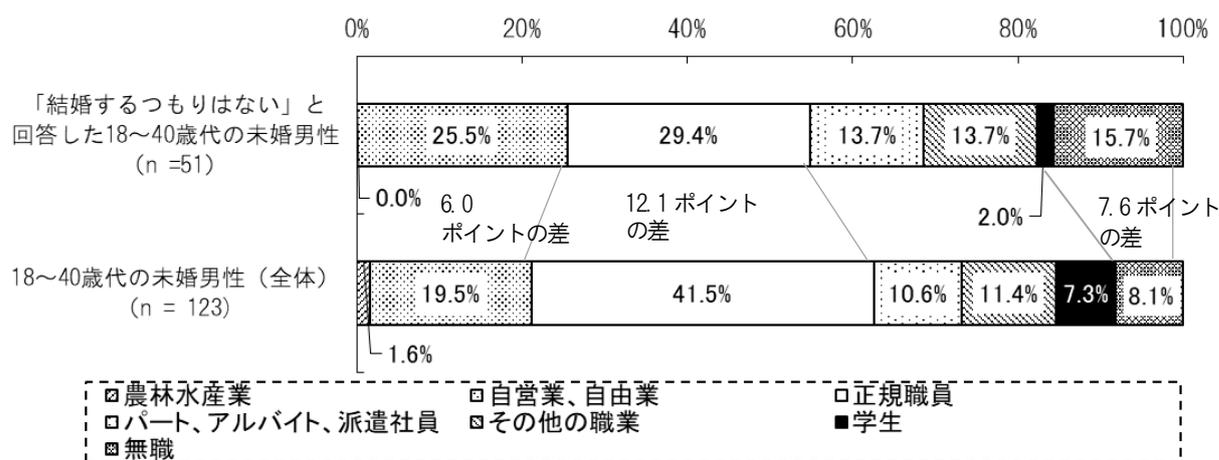


(2) 結婚への希望×未婚×職業 (18~40 歳代)

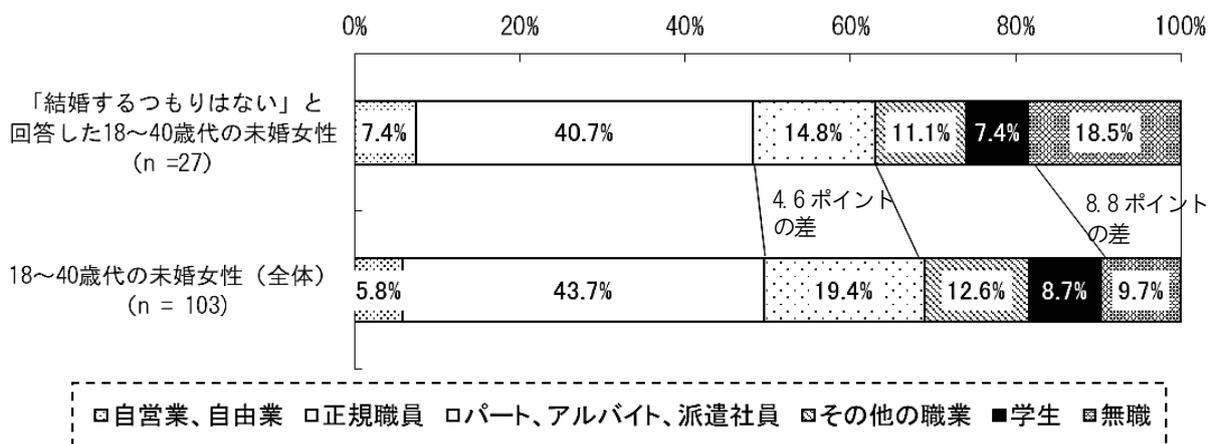
18~40 歳代の未婚の男性・女性の職業と結婚への希望をクロス分析したところ、「結婚するつもりはない」と答えた男性では、18~40 歳代の未婚の男性全体より正規職員の割合が12.1ポイント低くなっている一方で、自営業・自由業では6.0ポイント、パート・アルバイト・派遣社員では3.1ポイント、無職では7.6ポイント高くなっています(図表3-1-3a)。

「結婚するつもりはない」と答えた女性の場合、18~40 歳代の未婚の女性全体よりパート・アルバイト・派遣社員の割合が4.6ポイント、正規職員が3.0ポイント低くなっている一方で、無職では8.8ポイント高くなっています(図表3-1-3b)。

図表3-1-3a 職業別「結婚するつもり」「結婚するつもりはない」と回答した者の割合 (18~40 歳代の未婚の男性)



図表3-1-3b 職業別「結婚するつもり」「結婚するつもりはない」と回答した者の割合 (18~40 歳代の未婚の女性)

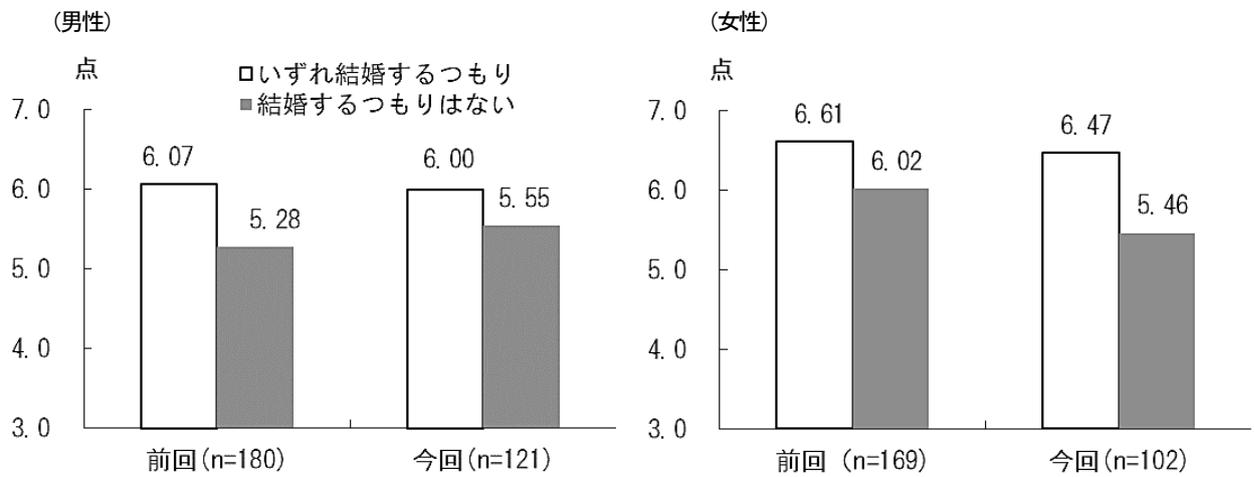


(3) 幸福感×未婚 (18~40 歳代)

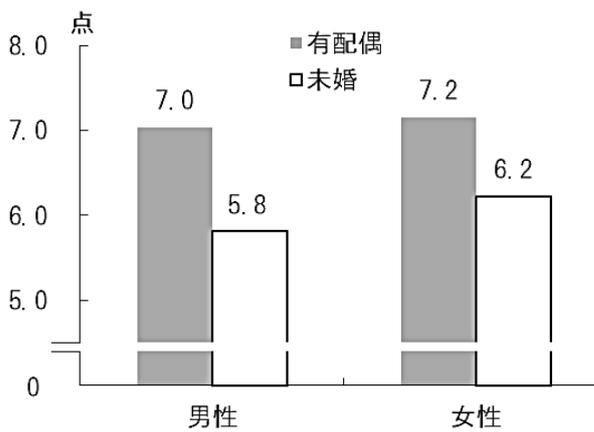
18~40 歳代の未婚と幸福感とをクロス分析したところ、男性では「結婚するつもりはない」と回答した人の幸福感は5.55で、「いずれ結婚するつもり」と回答した者の幸福感6.00より、0.45点低くなっています。女性では「結婚するつもりはない」と回答した者の幸福感は5.46で、「いずれ結婚するつもり」と回答した者の幸福感6.47より、1.01点低くなっています。(図表3-1-4)。

一方、前回調査と今回調査とを比較すると、男性の場合、「いずれ結婚するつもり」と回答した者と「結婚するつもりはない」と回答した者のそれぞれの幸福感の差が小さくなっています。

図表 3-1-4 「いずれ結婚するつもり」と回答した者と「結婚するつもりはない」と回答した者の幸福感（18～40 歳代の未婚男女）



(参考) 未婚と有配偶の幸福感（今回調査：18～40 歳代の男女）

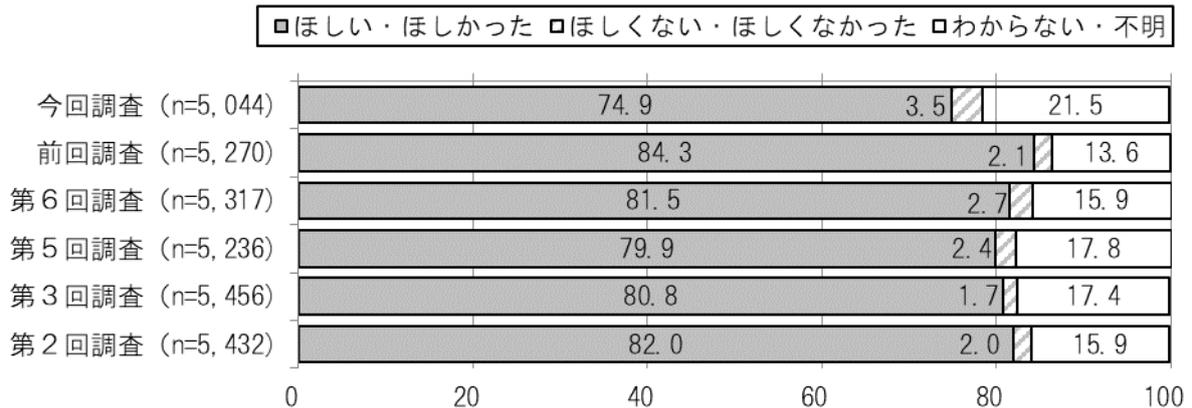


第2節 妊娠・出産、子育てに関する現状と分析

1 子どもを希望する割合の推移（18～40歳代）

子どもの希望について、「子どもがほしい・ほしかった」の割合は74.9%で、前回調査より9.4ポイント低くなっています。

図表3-2-1 子どもを希望する割合



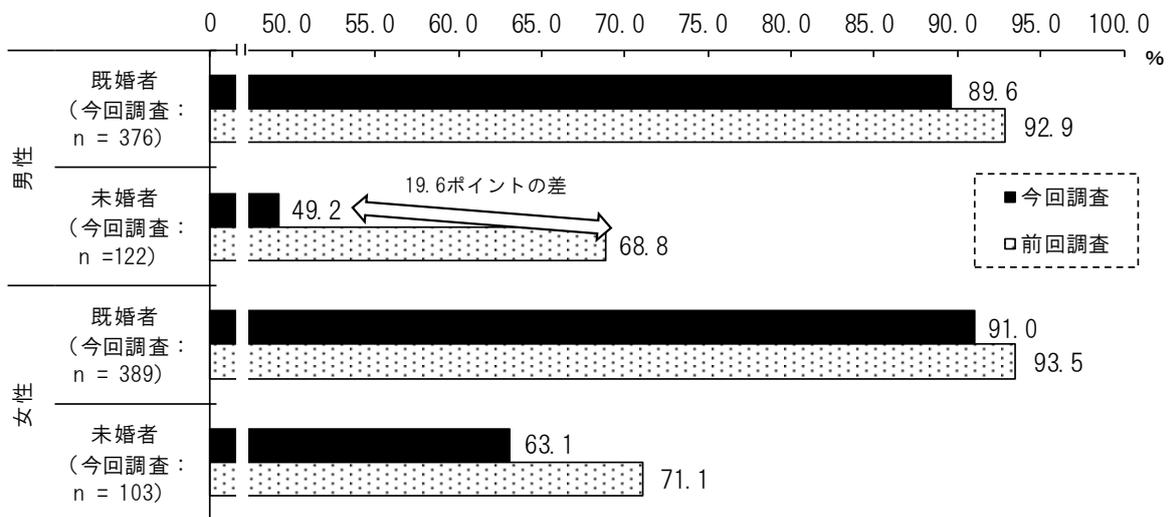
※第1回、第4回では子どもの希望について質問していないため、上記のような比較となっています。

2 属性別の子どもの希望

(1) 性別×未婚・既婚別×子どもの希望（18～40歳代）

子どもの希望を質問したところ、18～40歳代のうち、子どもがほしいと思う人の割合は、既婚者では男女ともに約90%となっています。また、今回調査ではすべての属性で前回調査より、希望する割合が低下しており、未婚の男性は、49.2%と、前回調査よりも19.6ポイント低くなっています（図表3-2-2）。

図表3-2-2 子どもを希望する割合（18～40歳代）



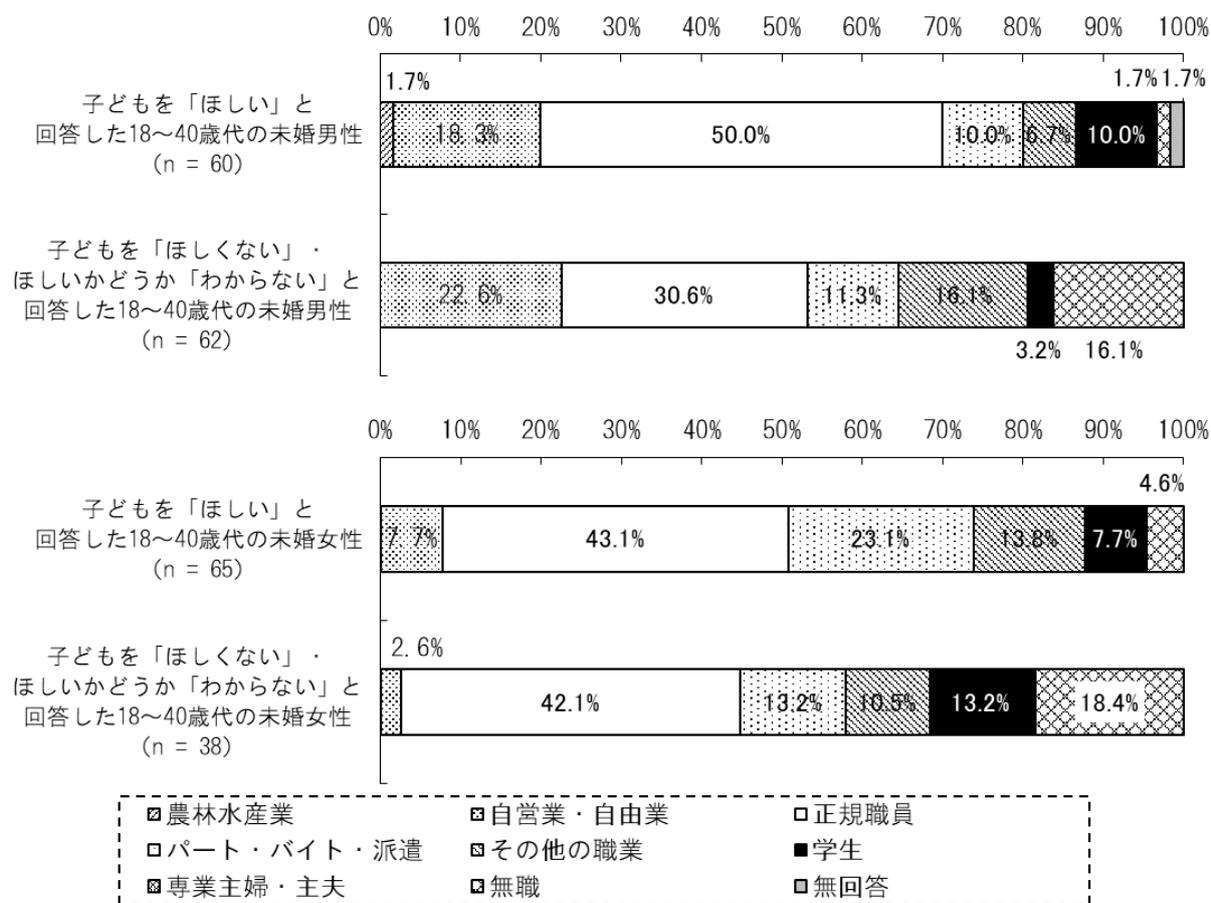
(2) 職業×性別×未婚×子どもの希望 (18~40 歳代)

18~40 歳代の未婚の男性・女性の職業と子どもの希望をクロス分析したところ、子どもが「ほしい」

と答えた男性では、子どもが「ほしくない」または「わからない」と答えた男性より、正規職員の割合が19.4ポイント高くなっています。一方、無職では14.4ポイント低くなっています。

子どもが「ほしい」と答えた女性では、子どもが「ほしくない」または「わからない」と答えた女性より、パート・アルバイト・派遣職員の割合が9.9ポイント高くなっています。一方、無職では13.8ポイント低くなっています(図表3-2-3)。

図表3-2-3 子どもを「ほしくない」又はほしいかどうか「わからない」と回答した者の職業の割合(18~40 歳代の未婚男女)



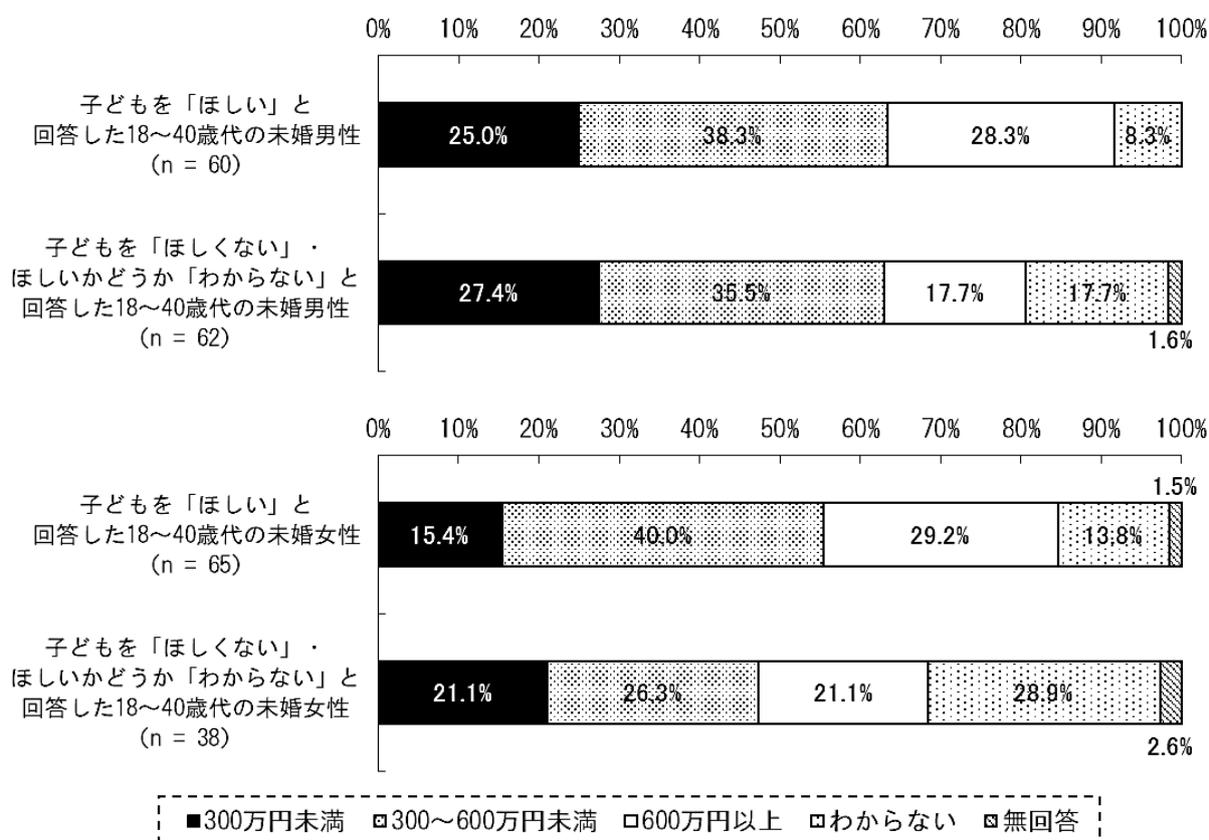
(3) 収入別×性別×未婚×子どもの希望 (18～40 歳代)

18～40 歳代の未婚の男性・女性の世帯収入と子どもの希望をクロス分析したところ、子どもが「ほしい」と答えた男性では、子どもが「ほしくない」または「わからない」と答えた男性より、世帯収入 600 万円以上の割合が 10.6 ポイント高くなっています。

子どもが「ほしい」と答えた女性では、子どもが「ほしい」または「わからない」と答えた女性より世帯収入 300 万円以上 600 万円未満の割合が 13.7 ポイント、世帯収入 600 万円以上の割合が 8.1 ポイントそれぞれ高くなっています (図表 3-2-4)。

図表 3-2-4 子どもを「ほしくない」又はほしいかどうか「わからない」と回答した者の世帯収入の割合

(18～40 歳代の未婚男女)

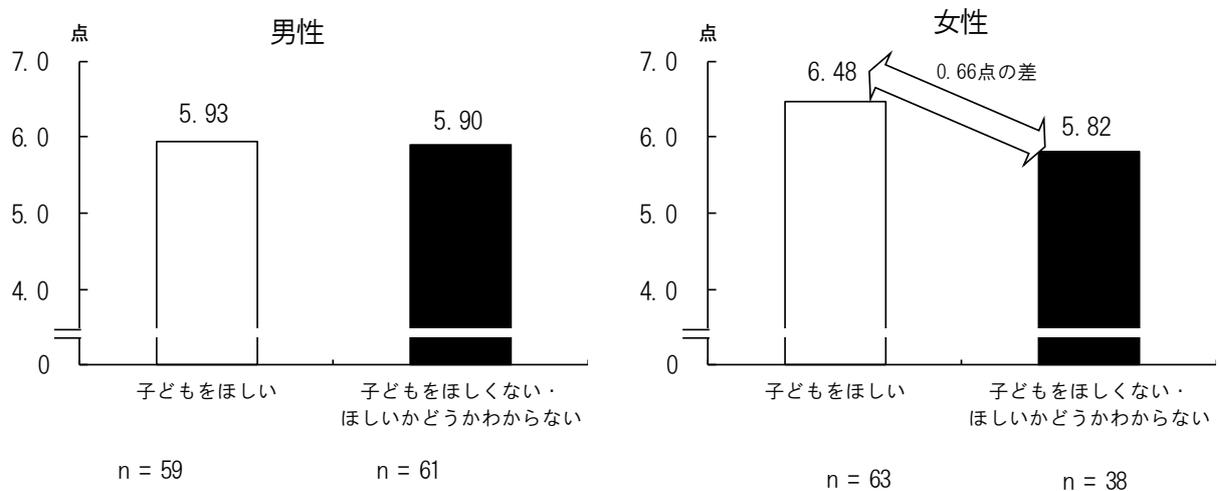


(4) 幸福感×未婚×子どもの希望 (18~40 歳代)

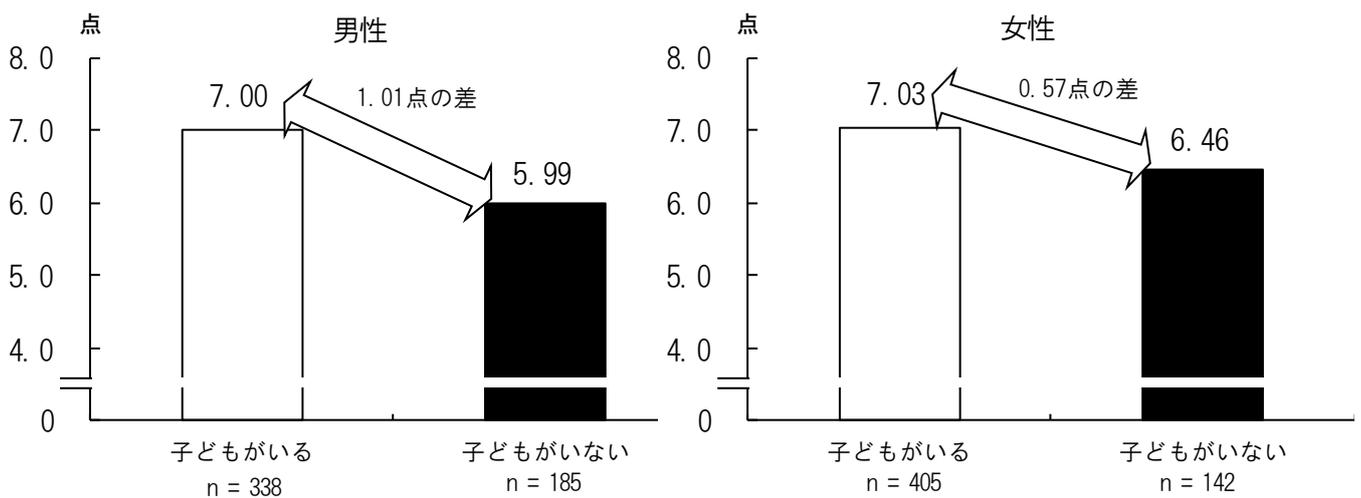
18~40 歳代の未婚の男性・女性のうち、幸福感と子どもの希望のクロス分析をしたところ、男性では子どもを「ほしくない」又は、ほしいかどうか「わからない」と回答した人の幸福感は 5.90 で、子どもを「ほしい」と回答した人の幸福感 5.93 と同程度でした。

また、女性では、子どもを「ほしくない」又は、ほしいかどうか「わからない」と回答した人の幸福感は 5.82 で、子どもを「ほしい」と回答した人の幸福感 6.48 より、0.66 点低くなっています。(図表 3-2-5)。

図表 3-2-5 子どもが「ほしい」と回答した人と子どもを「ほしくない」又はほしいかどうか「わからない」と回答した人の幸福感 (18~40 歳代の未婚の男女)



(参考) 子どもがいる層と子どもがいない層の幸福感 (18~40 歳代の男女)

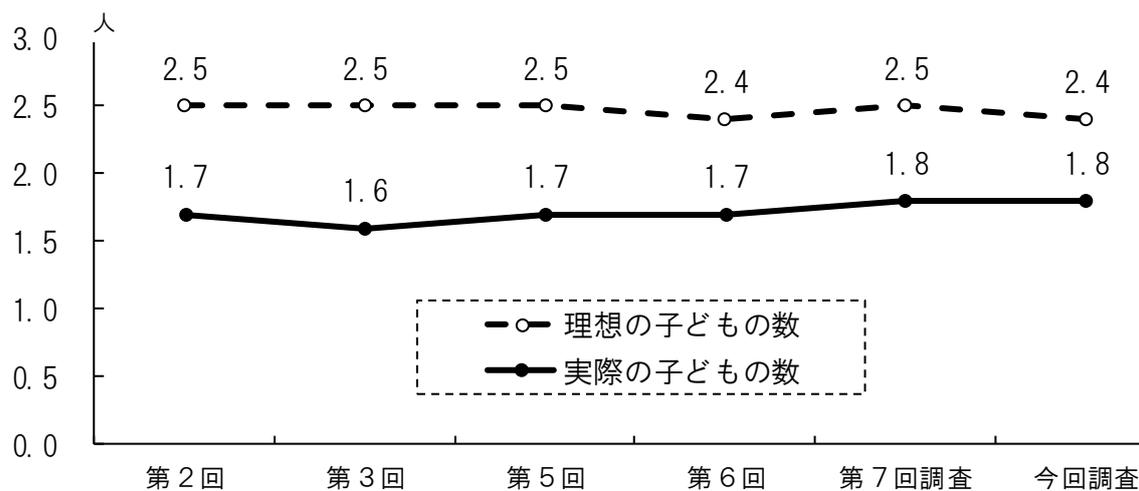


第3節 実際の子どもの数と理想の子どもの数の差の理由

(1) 実際の子どもの数と理想の子どもの数の差の推移

第2回調査から今回調査における実際の子どもの数は1.6～1.8人となっている一方で、理想の子どもの数は2.4～2.5人となっており、実際と理想の子どもの数にギャップが生じています(図表3-3-1)。

図表3-3-1 理想の子どもの数と実際の子どもの数の推移



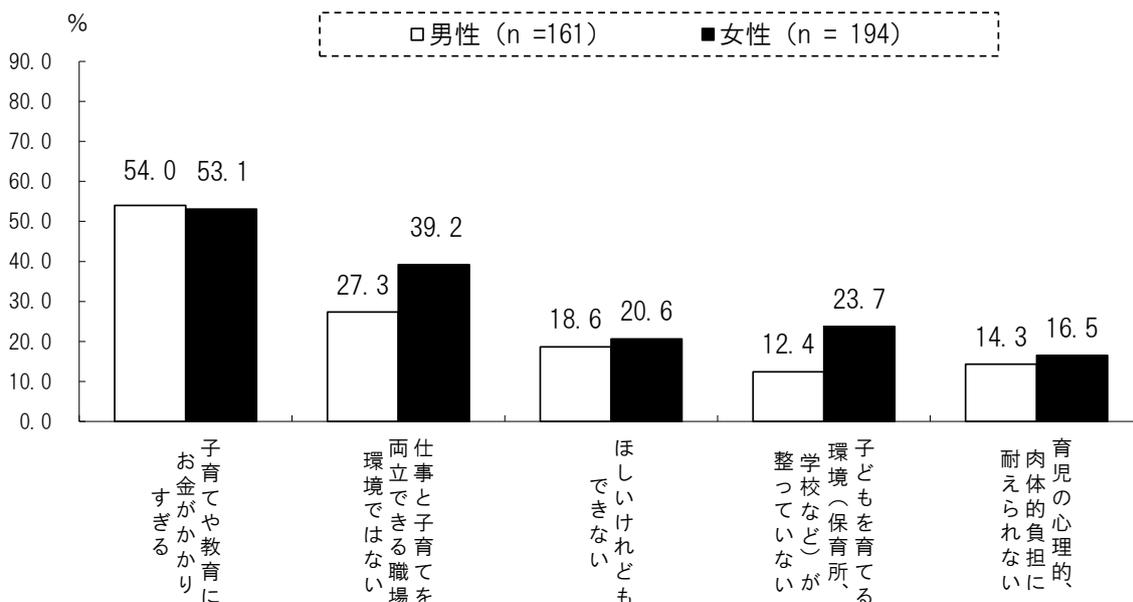
※第1回及び第4回調査では実際の子どもの数と理想の子どもの数について質問していないため、上記のようなグラフとなっています。

(2) 性別×実際の子どもの数と理想の子どもの数の差が生じる理由(18~40 歳代)

18~40 歳代の実際の子どもの数が理想の子どもの数より少ない理由は、男女のいずれでも「子育てや教育にお金がかかりすぎる」が最も多くなり、同程度の割合となりました。

「仕事と子育てを両立できる職場環境ではない」は、女性の方が男性より11.9ポイント高く、「子どもを育てる環境(保育所、学校など)が整っていない」でも、女性の方が男性より 11.3 ポイント高くなっています(図表 3-3-2)。

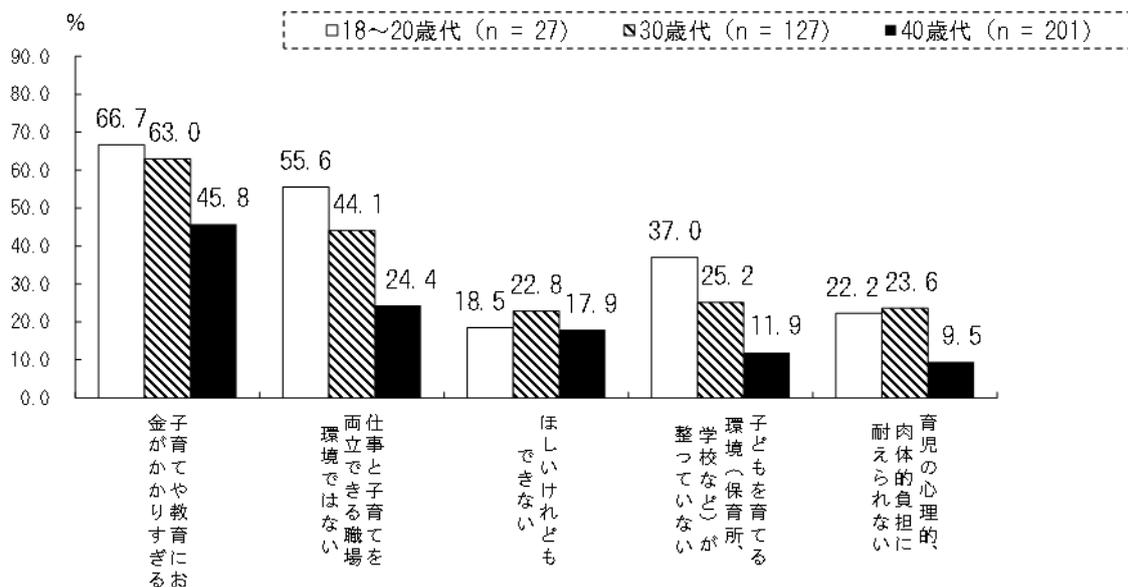
図表 3-3-2 実際の子どもの数が理想の子どもの数より少ない理由 (18~40 歳代の上位5項目：男女別)



(3) 年齢別×実際の子どもの数と理想の子どもの数の差が生じる理由

18~40 歳代の実際の子どもの数が理想の子どもの数より少ない理由を年齢別にみると、どの世代においても「子育てや教育にお金がかかりすぎる」を選んだ割合が最も高くなりました(図表 3-3-3)。

図表 3-3-3 実際の子どもの数が理想の子どもの数より少ない理由 (18~40 歳代の上位5項目：年齢別)

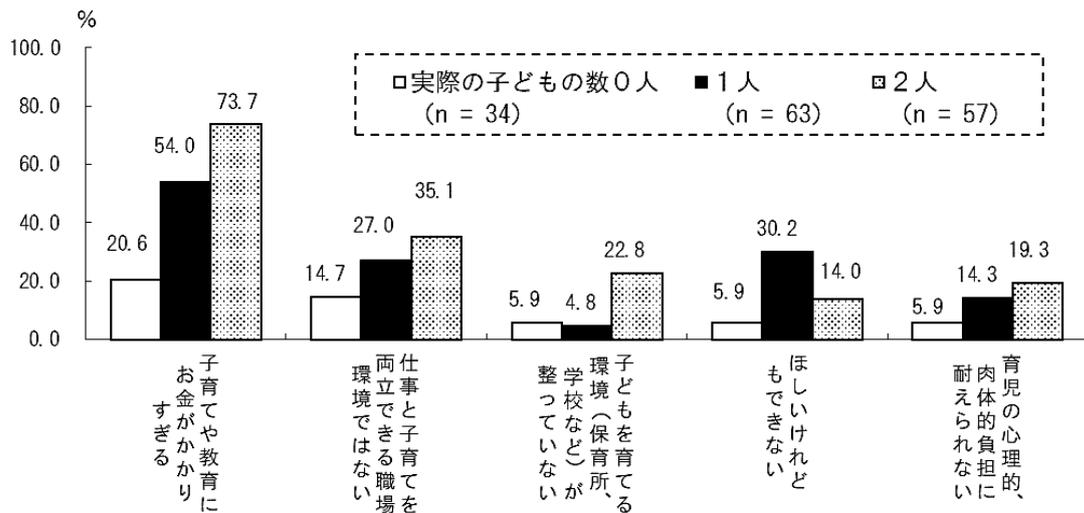


(4)子どもの数別の実際の子どもの数と理想の子どもの数との差がある理由

実際の子どもの数が理想の子どもの数より少なかった有配偶の18～40歳代を対象に、実際の子どもの数が理想の子どもの数より少ない理由について、性別、実際の子どもの数別でクロス分析を行いました。

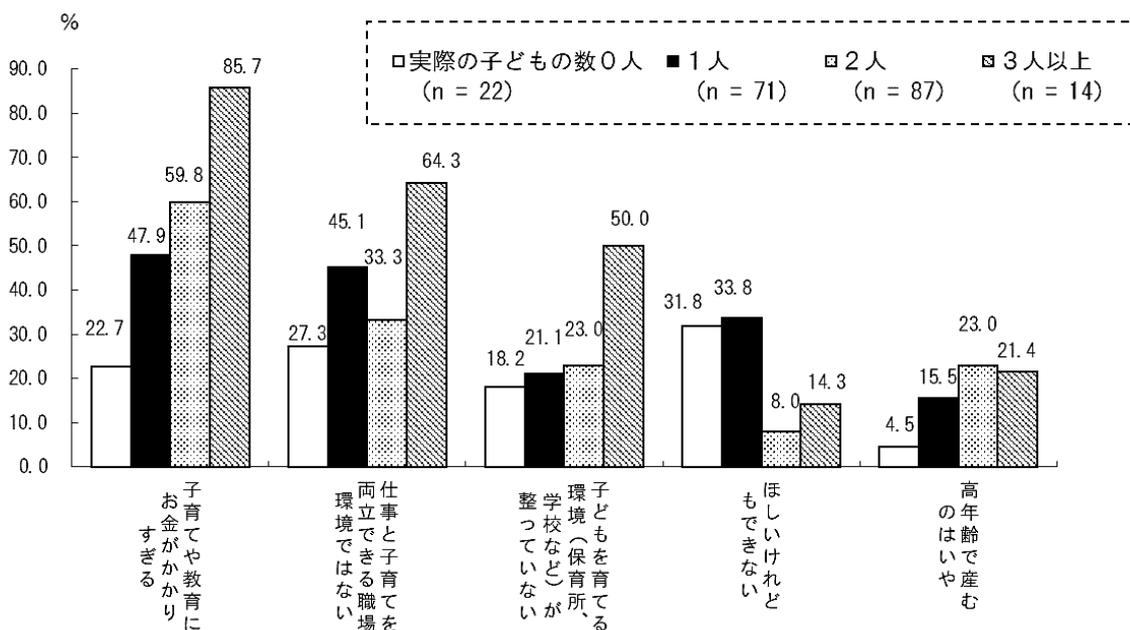
実際の子どもの数が1人の場合、男性では「子育てや教育にお金がかかりすぎる」を選んだ割合が最も高く、2番目以降を選んだ割合より20ポイント以上高くなっていました。女性の場合、「子育てや教育にお金がかかりすぎる」と「仕事と子育てを両立できる環境がない」を選んだ割合が同程度に高く、また、「子どもを育てる環境が整っていない」を選んだ割合が、男性より16.3ポイント高くなっていました(図表3-3-4、図表3-3-5)。

図表3-3-4 実際の子どもの数が理想の子どもの数より少ない理由 (18～40歳代の男性の上位5項目)



(備考) 実際の子どもの数が3人以上の層はサンプル数が10未満のため、掲載を省略しています。

図表3-3-5 実際の子どもの数が理想の子どもの数より少ない理由 (18～40歳代の女性の上位5項目)



■少子化対策（妊娠・出産、子育て）に係る政策の示唆

幸福感と最も相関関係のある幸福実感指標は、「結婚・妊娠・子育てなどの希望がかない、子どもが豊かに育っている」であることから、少子化対策を推進し、結婚・妊娠・子育てなどの希望がかない、全ての子どもが豊かに育つことのできる環境づくりを進めることが、県民の幸福実感を高めるために有効であると考えられます。

今後の少子化対策については、実際の子どもの数と理想の子どもの数にギャップがある理由に関する属性別の傾向を踏まえ、きめ細かな対策を講じることが重要であると考えます。

特に「お金がかかりすぎる」「仕事と子育てを両立できる環境にない」と思う割合が高かったことから、引き続き、所得向上につながる就労支援やキャリアアップ支援、待機児童の解消など、働きながら安心して子育てができるような対策が必要です。

また、「ほしいけれどもできない」も一定の割合で選択されていることから、不妊に悩む夫婦に対する支援についても継続して取り組むことが重要であると考えます。

また、男女それぞれのギャップの理由を比較すると、男女で理想の子どもの数は 2.4 人と差がなかったにもかかわらず、実際の子どもの数が 1 人の男性女性を比較すると、男性では「お金がかかりすぎる」を選んだ割合が最も高く、2 番目、3 番目の理由を選んだ割合と 20 ポイント以上の差がありました。

一方、女性の場合、「仕事と子育てを両立できる環境にない」を選んだ割合が、「お金がかかりすぎる」と同程度に高く、また、「子どもを育てる環境が整っていない」を選んだ割合が、男性より約 16 ポイント高くなっていました。

このことから、女性の方が仕事と子育ての両立に不安を抱えていると考えられることから、働き方改革を一層推進するために、企業への働きかけなどを通じて、長時間労働の是正や男性の育児参画等の取組を広げていくことが重要と考えられます。

より効果的に成果が表れるよう、引き続き、現在の取組の効果検証を行いながら、市町、企業と連携し、きめ細かな対策を進めていく必要があります。

みえ県民意識調査分析レポート（令和元年度）
－ 県民の幸福実感向上のために －

令和2（2020）年3月
三重県 戦略企画部 企画課

〒514-8570 津市広明町13番地

T e l : 059-224-2025

F a x : 059-224-2069

E-mail : kikakuk@pref.mie.lg.jp

URL : <http://www.pref.mie.lg.jp/KIKAKUK/HP/mieishiki/>
